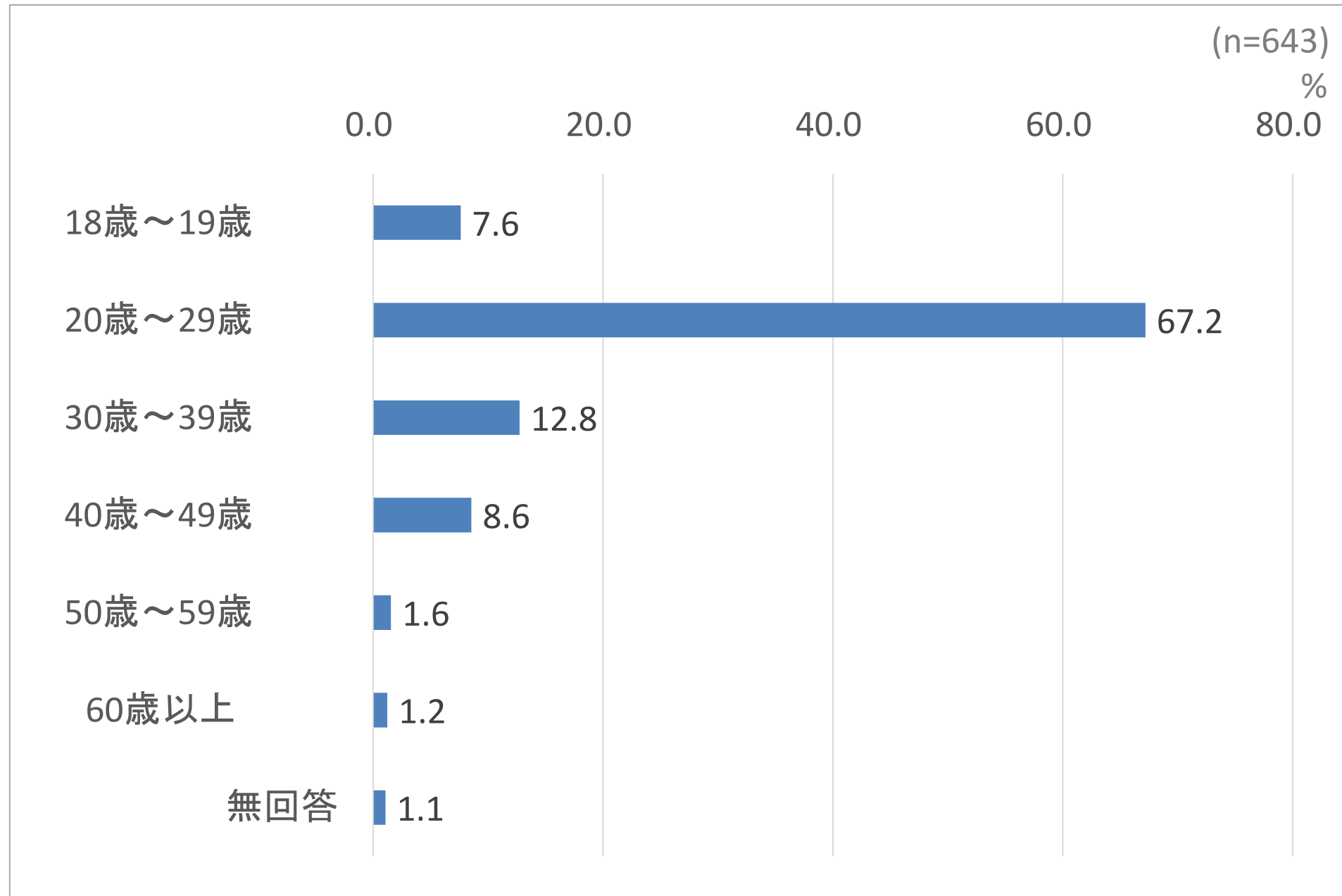




# 外国人への調査結果

## ①年代



## 【前回調査との比較】

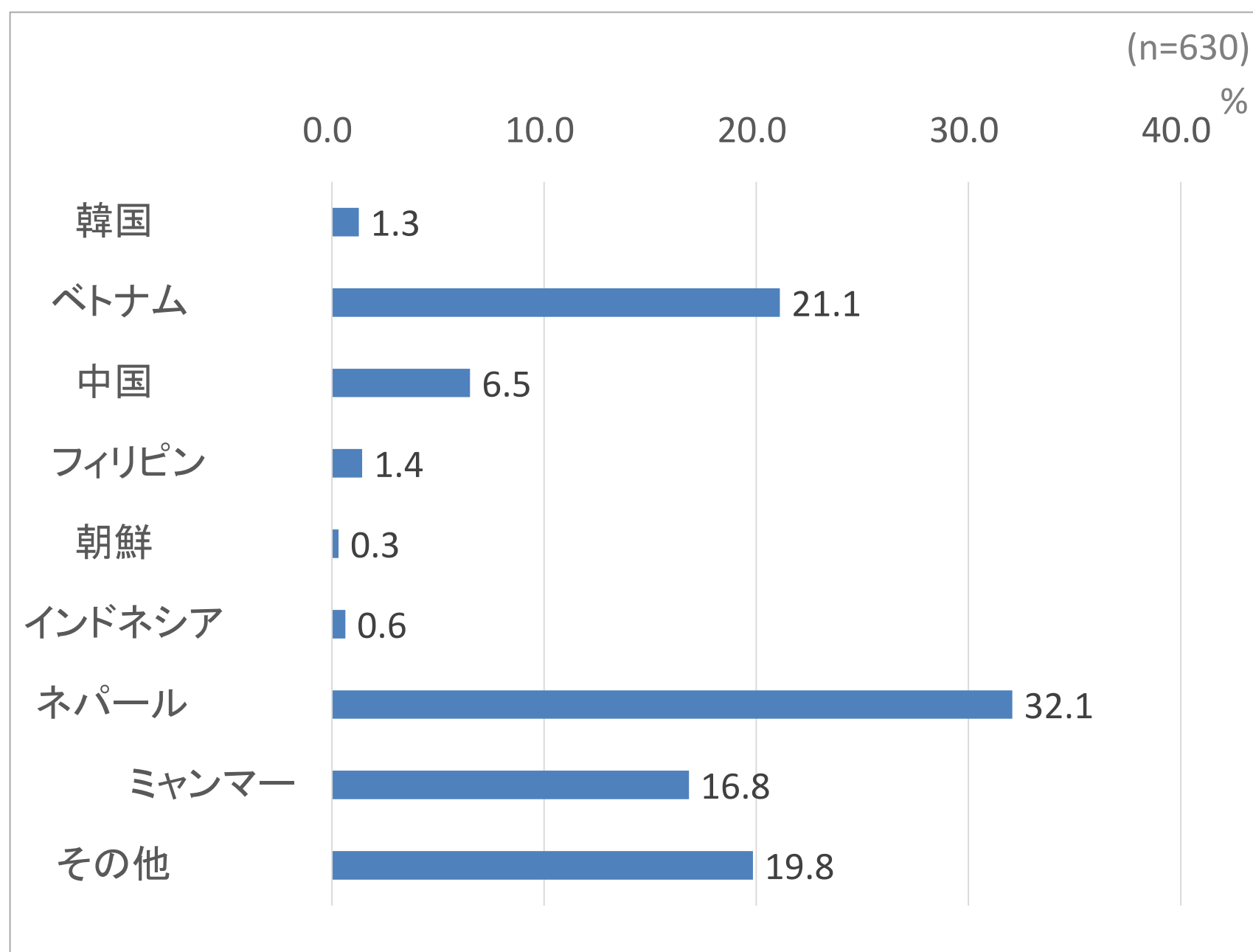
(%)

	令和2年	令和7年	増減
18歳～19歳	2.3	7.6	5.3
20歳～29歳	59.5	67.2	7.7
30歳～39歳	25.8	12.8	-13.0
40歳～49歳	7.8	8.6	0.8
50歳～59歳	3.2	1.6	-1.6
60歳以上	0.8	1.2	0.4
無回答	0.6	1.1	0.5



# 外国人への調査結果

## ②国籍



### 【前回調査との比較】

(%)

### 【参考】

	令和2年	令和7年	増減	姫路市国籍別外国人割合 (%) (注1)
韓国	1.5	1.3	-0.2	29.9 (注2)
ベトナム	62.0	21.1	-40.9	34.0
中国	22.7	6.5	-16.2	9.4
フィリピン	3.8	1.4	-2.4	4.7
朝鮮	-	0.3	-	-
インドネシア	0.6	0.6	0	4.7
ネパール	-	32.1	-	5.5
ミャンマー	-	16.8	-	3.3
その他	9.5	19.8	10.3	8.5

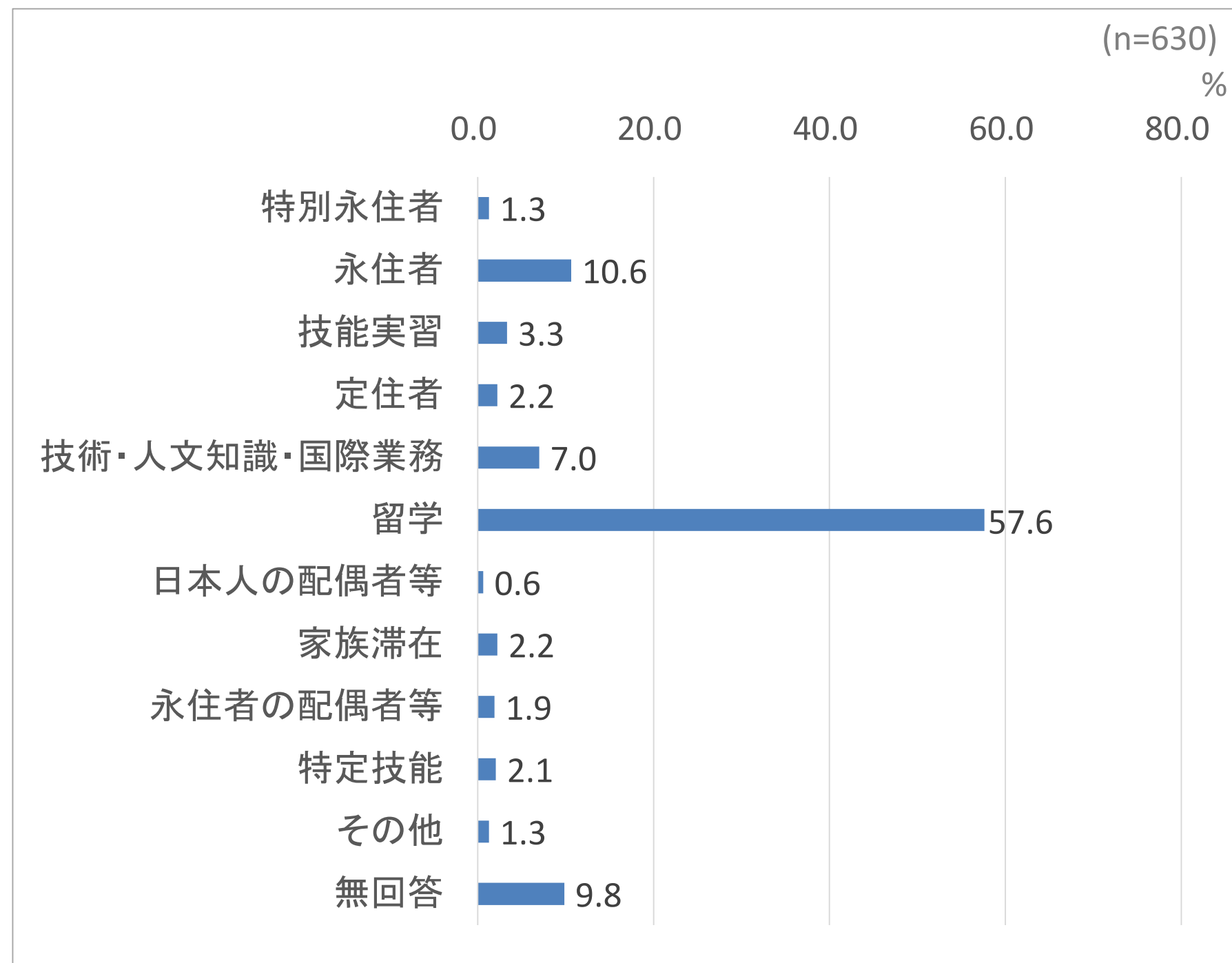
(注1) 姫路市外国人人口 14,064人 (令和7年3月31日現在)

(注2) 姫路市在住国籍別外国人割合の「韓国」の数値には朝鮮を含む。



# 外国人への調査結果

## ③在留資格



### 【前回調査との比較】

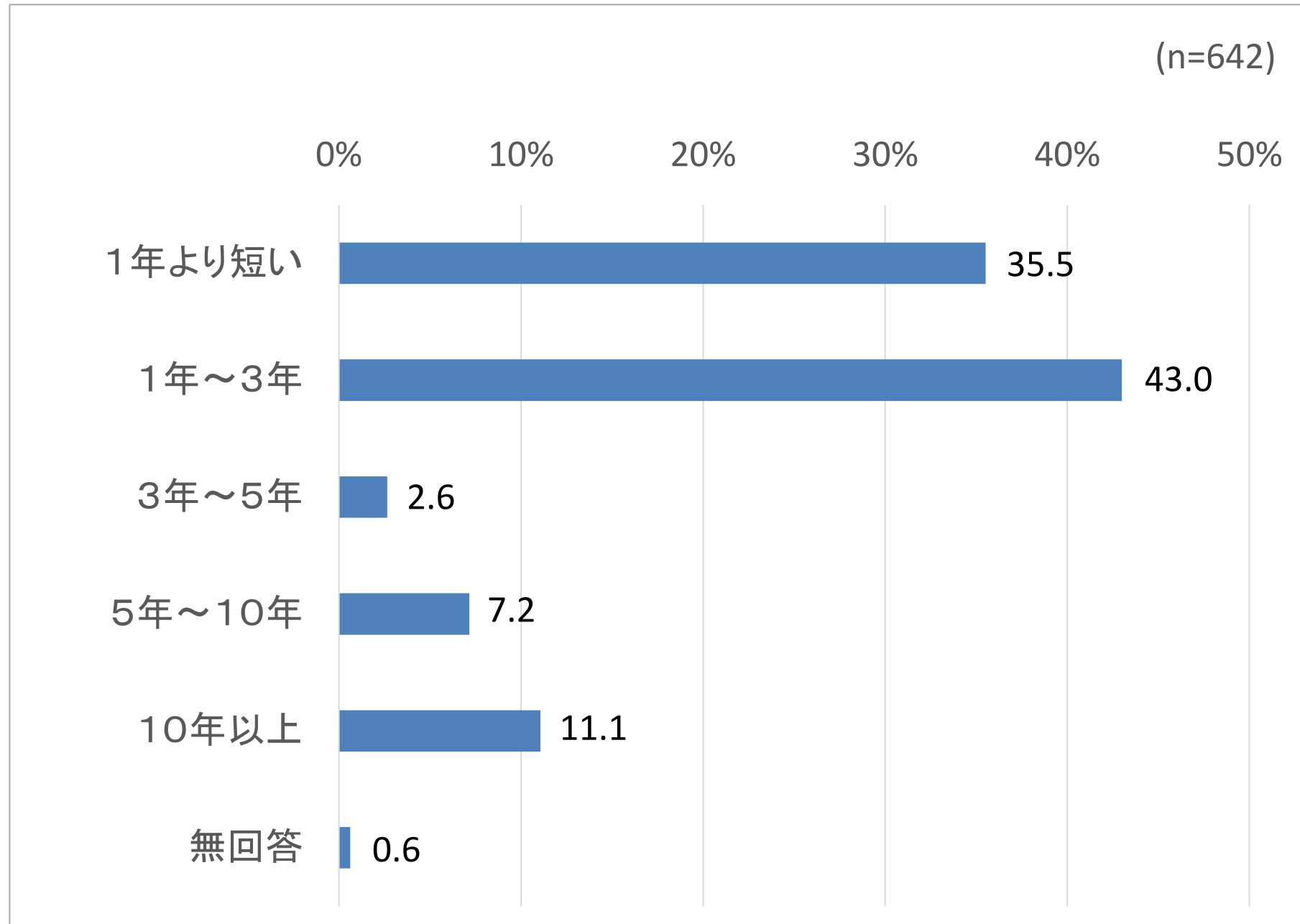
(%)

	令和2年	令和7年	増減
特別永住者	1.3	1.3	0.0
永住者	16.6	10.6	-6.0
技能実習	30.7	3.3	-27.4
定住者	4.4	2.2	-2.2
技術・人文知識・国際業務	15.1	7.0	-8.1
留学	19.1	57.6	38.5
日本人の配偶者等	1.5	0.6	-0.9
家族滞在	1.9	2.2	0.3
永住者の配偶者等	2.1	1.9	-0.2
特定技能	0.8	2.1	1.3
その他	2.5	1.3	-1.2
無回答	4.0	9.8	5.8



# 外国人への調査結果

## ④姫路市での居住年数



【前回調査との比較】

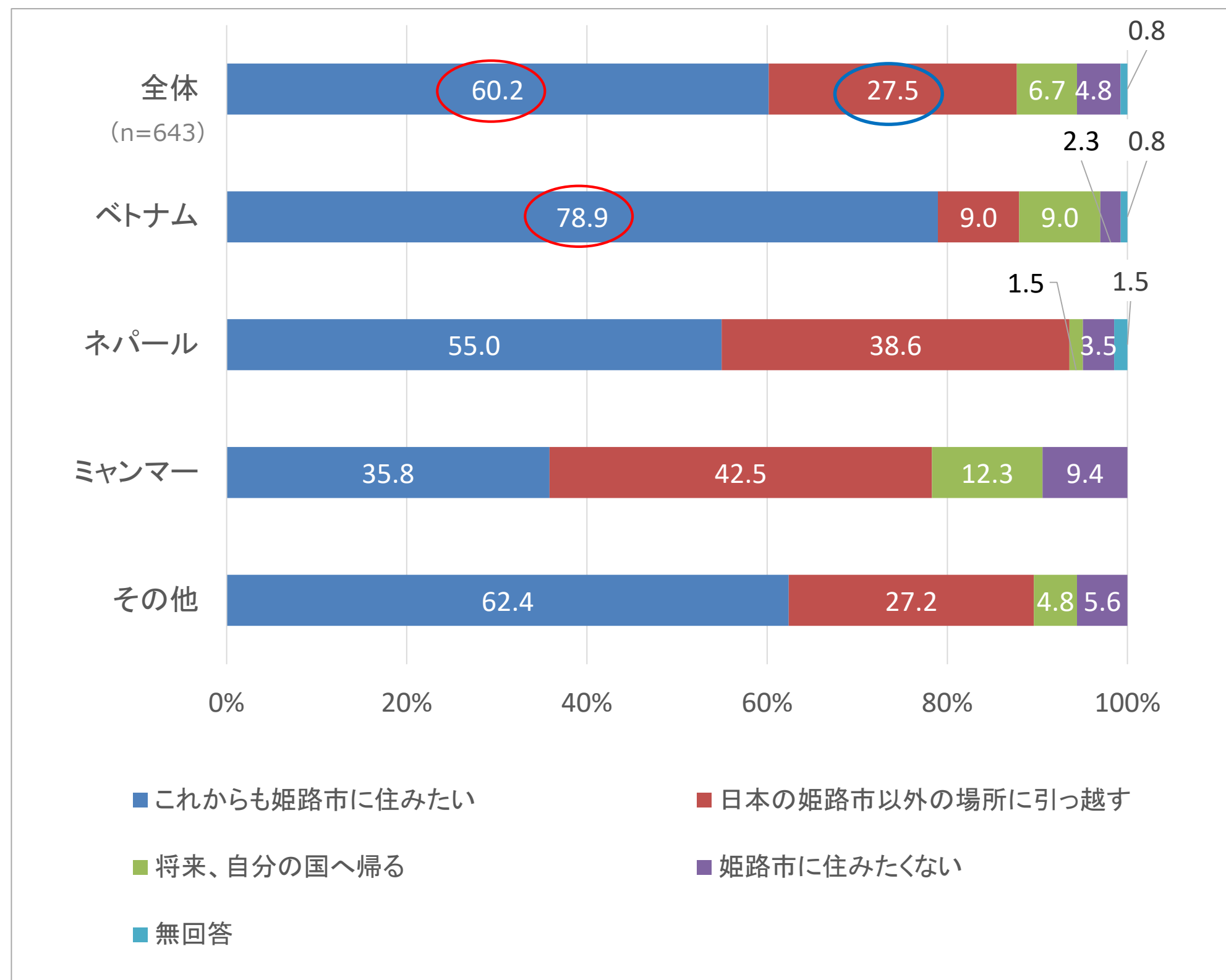
(%)

	令和2年	令和7年	増減
1年より短い	15.5	35.5	20.0
1年～3年未満	47.7	43.0	-4.7
3年～5年未満	11.1	2.6	-8.5
5年～10年未満	8.2	7.2	-1.0
10年以上	16.4	11.1	-5.3
無回答	1.1	0.6	-0.5



# 外国人への調査結果

## ⑤今後の姫路市での居住意向



【前回調査との比較】

(%)

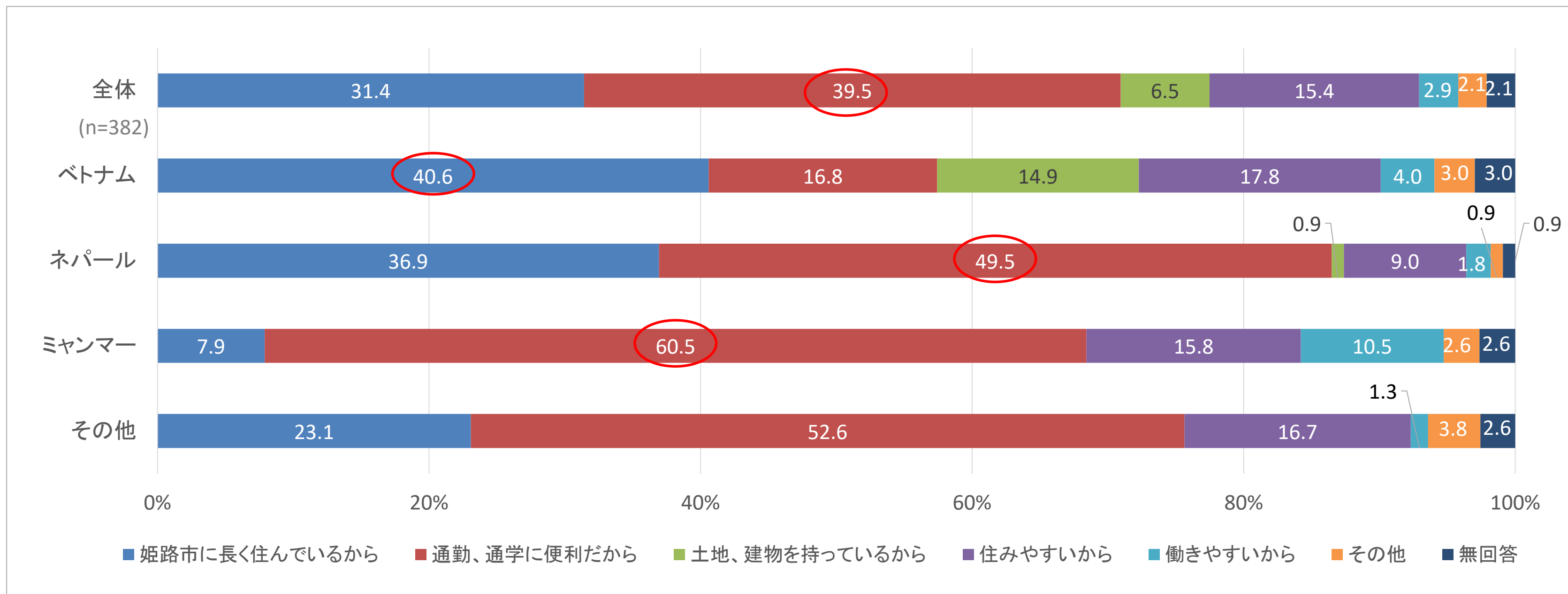
	令和2年	令和7年	増減
これからも姫路市に住みたい	58.8	60.2	1.4
日本の姫路市以外の場所に引っ越す	13.4	27.5	14.1
将来、自分の国へ帰る	25.8	6.7	-19.1
姫路市に住みたくない	0.4	4.8	4.4
無回答	1.5	0.8	-0.7

全体では約6割が「これからも姫路市に住みたい」と回答しており、ポジティブな意見の層が多数を占める。ただし、国によって差があり、ベトナムは非常に高い定着志向であるが、ネパールやミャンマーは傾向が分かれる。また、「日本の姫路市以外の場所に引っ越す」が全体の27.5%あり、留学生が就職を機に市外転出の意向を持っていることが推察される。



# 外国人への調査結果

## ⑥姫路市に住みたい理由



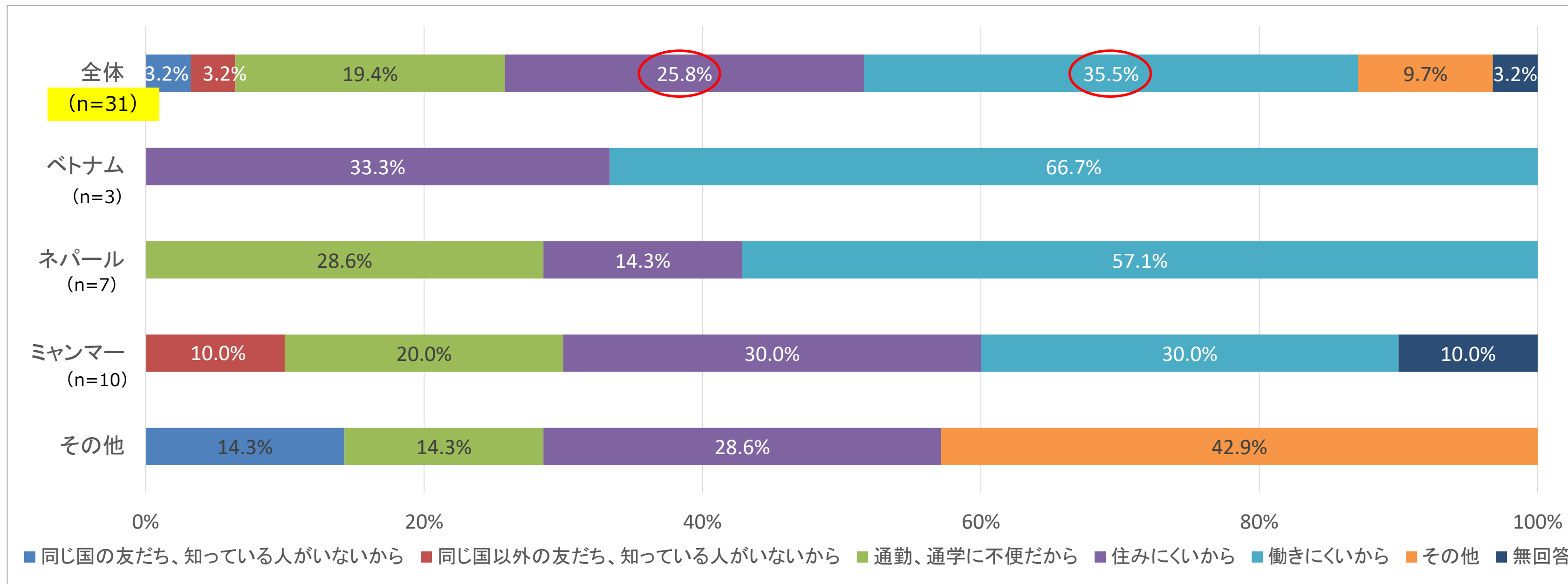
全体では、「通勤・通学に便利」（39.5％）が最も高く、学生や就労者の利便性重視が顕著である。次いで「長く住んでいるから」（31.4％）で、地域への愛着が定着につながっていると推察される。生活の質に対する評価を示す「住みやすいから」の割合は、15.4％に留まる。

国別では、ベトナムは、「長く住んでいるから」（40.6％）が最も高く、ネパールとミャンマーは、「通勤・通学に便利」が最も高く、特にミャンマーは、「通勤・通学に便利」が60.5％で、他国と比べても割合が高い。



# 外国人への調査結果

## ⑦姫路市で生活したくない理由

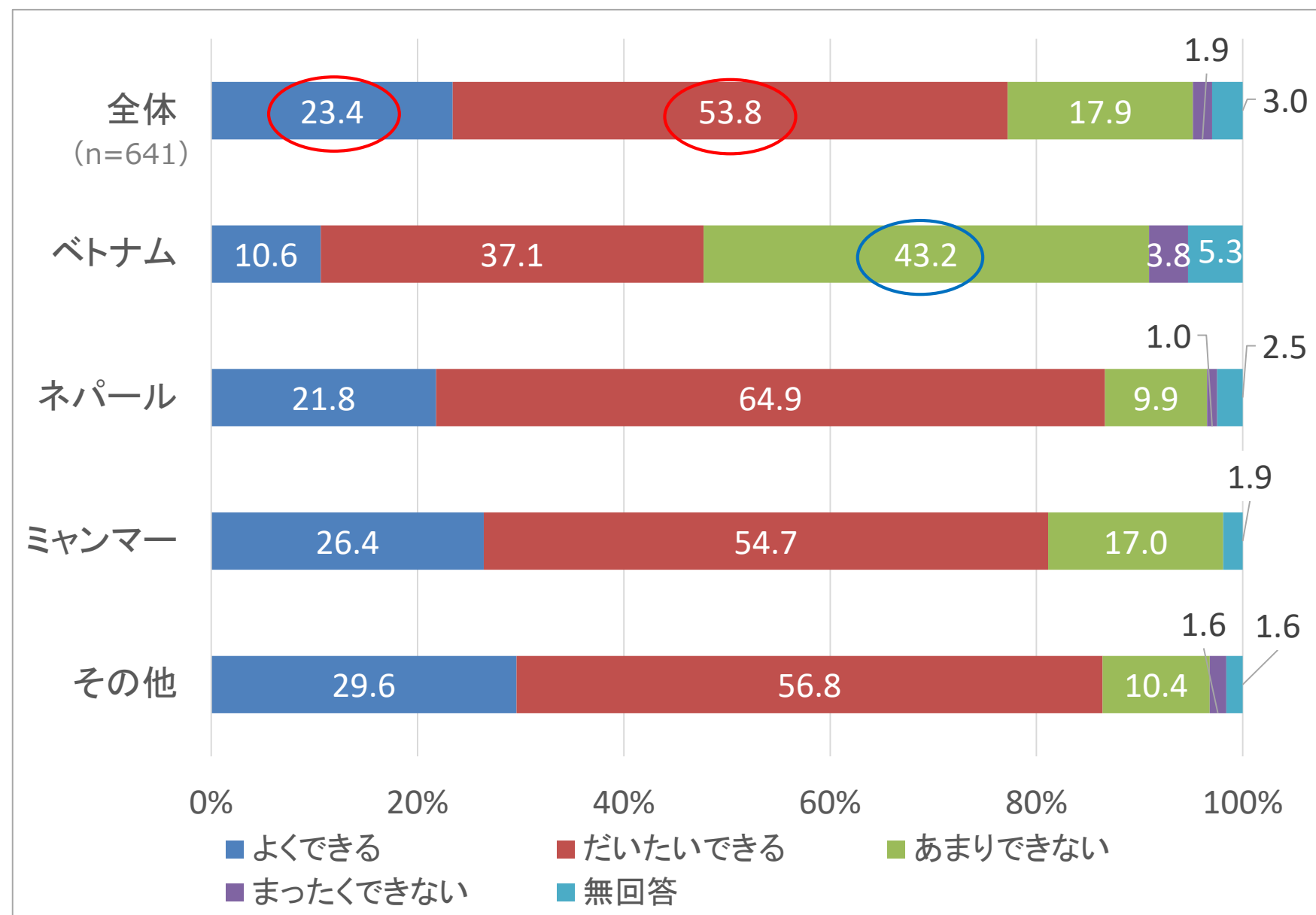


母数が小さいが全体では、「働きにくい」と「住みにくい」が合わせて約61%あり、生活の経済面・環境面に不満があることがうかがえる。少数ながら「友だち、知り合いがない」という理由も見受けられる。最も多い「働きにくい」(35.5%)については、賃金・雇用形態、労働条件、職場での言語対応など複合的要因が考えられる。次に多い「住みにくい」(25.8%)については、住宅の質の低さ、家賃負担の大きさ、契約上のハードル(連帯保証人や日本語の書類手続き)や近隣とのコミュニケーション問題などの要因が推察される。「通勤・通学に不便」(19.4%)は、居住地からの交通インフラや職場・学校へのアクセスの悪さ、交通費負担の大きさを示唆している。



# 外国人への調査結果

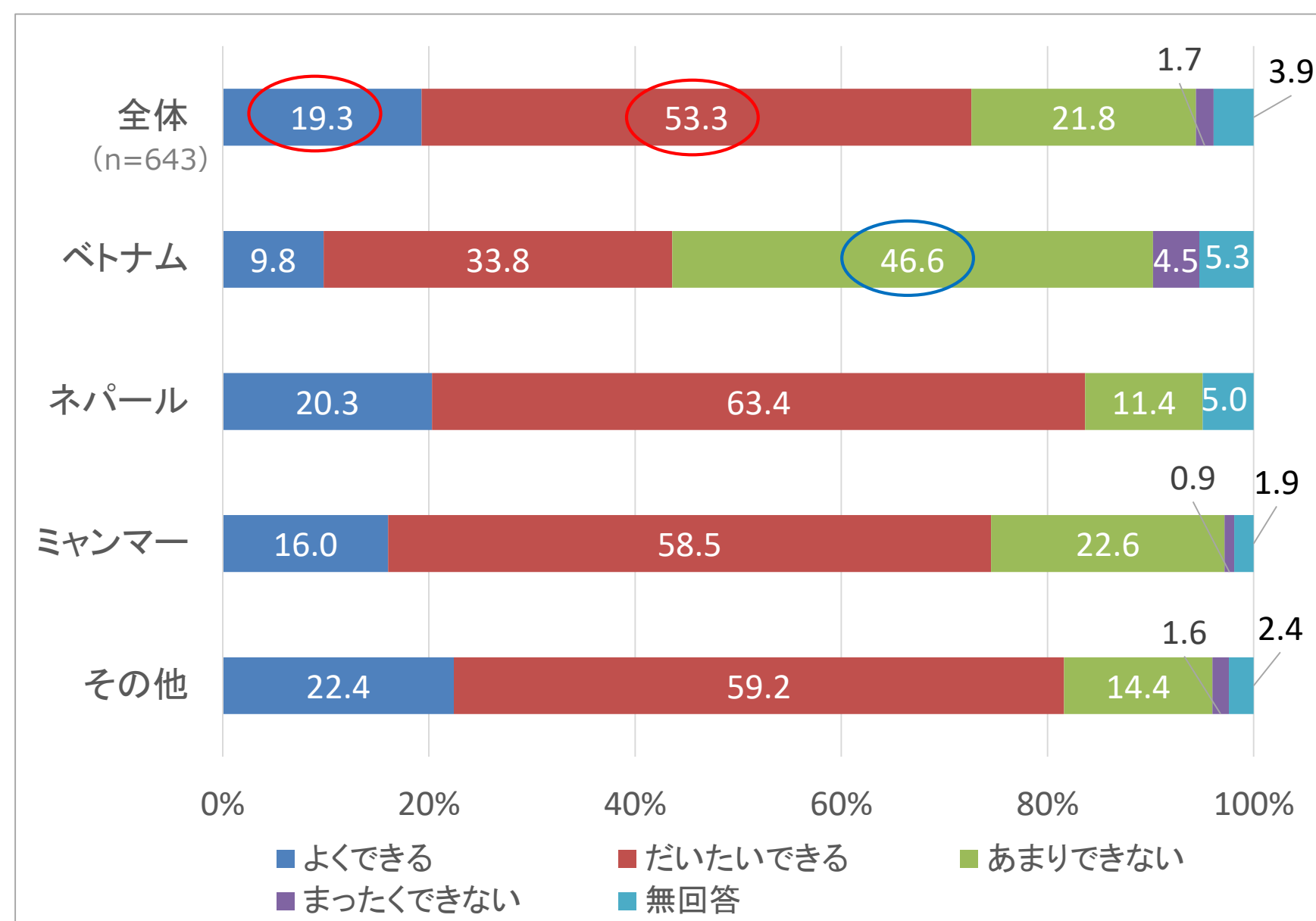
## ⑧日本語能力（読む）



全体では「だいたいできる」が53.8%で最も高く、次いで「よくできる」が23.4%、合計で約77%が日本語を「読む」ことができると自己評価している。

国別ではばらつきがあり、ベトナムは「あまりできない」（43.2%）が高く、ネパールやミャンマーは「よくできる」と「だいたいできる」が合わせて8割を超えており、高い傾向が見られる。

## ⑨日本語能力（書く）



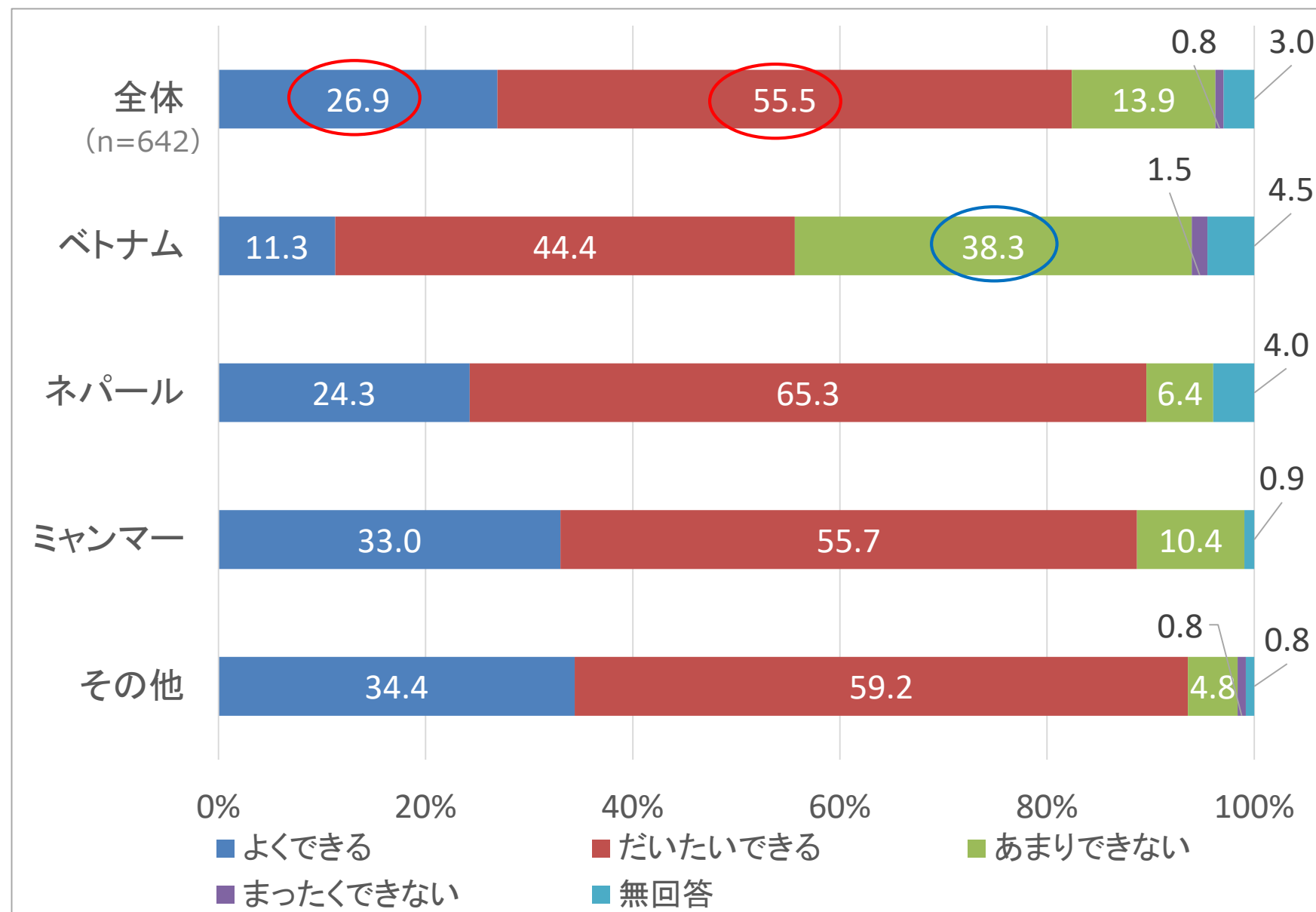
全体では「だいたいできる」が53.3%で最も高く、次いで「よくできる」が19.3%、合計で約73%が日本語を「書く」ことができると自己評価している。

国別では、ベトナムは「あまりできない」が最も高く（46.6%）、ネパールやミャンマーは「だいたいできる」が高い割合を占めている。



# 外国人への調査結果

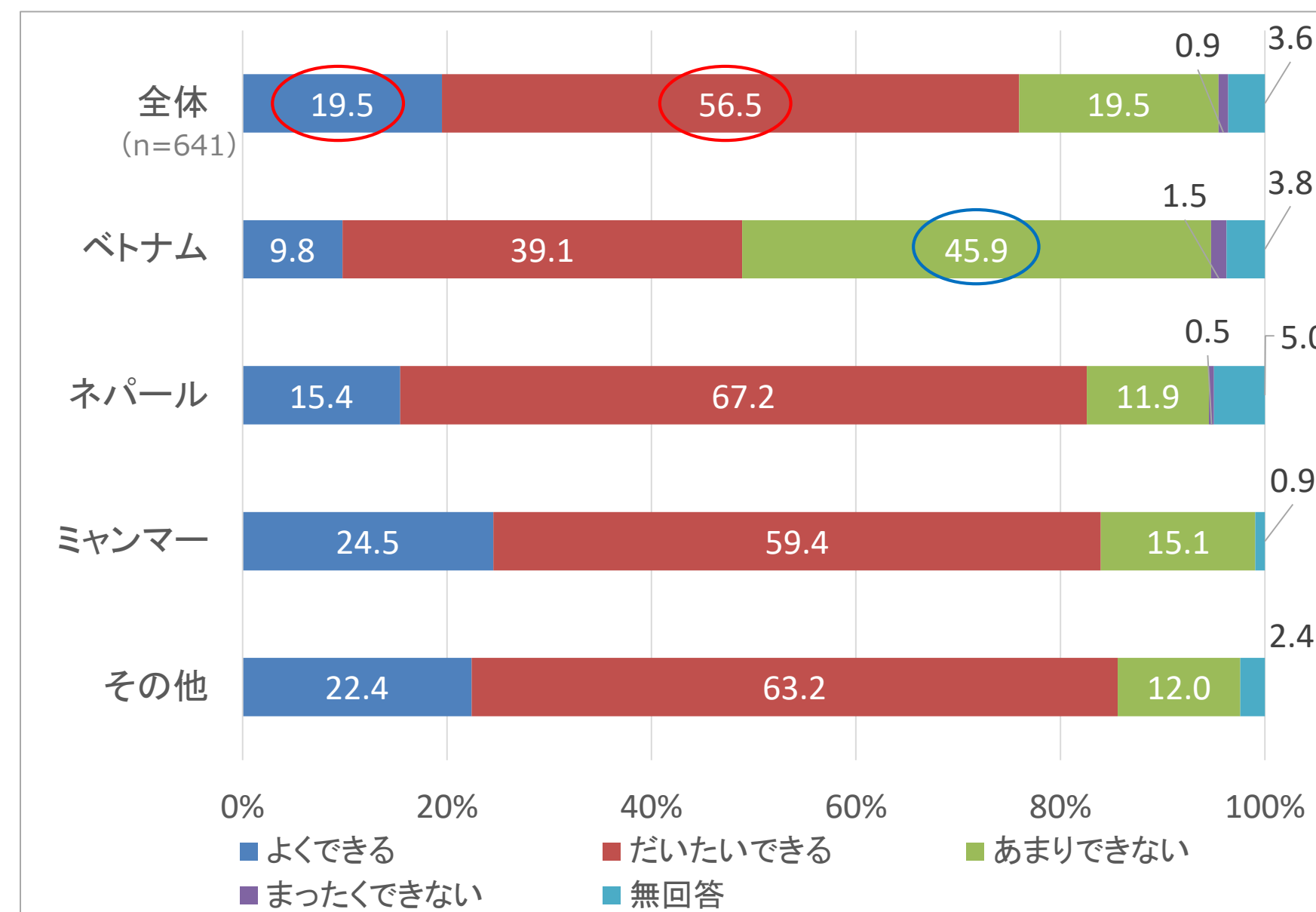
## ⑩日本語能力（聞く）



全体では「だいたいできる」が55.5%で最も高く、次いで「よくできる」が26.9%、合計で約82%が日本語を「聞く」ことができると自己評価している。

国別では、ネパール、ミャンマーは、「よくできる」と「だいたいできる」で9割近くになっている。ベトナムでは「あまりできない」（38.3%）が相対的に高い。

## ⑪日本語能力（話す）



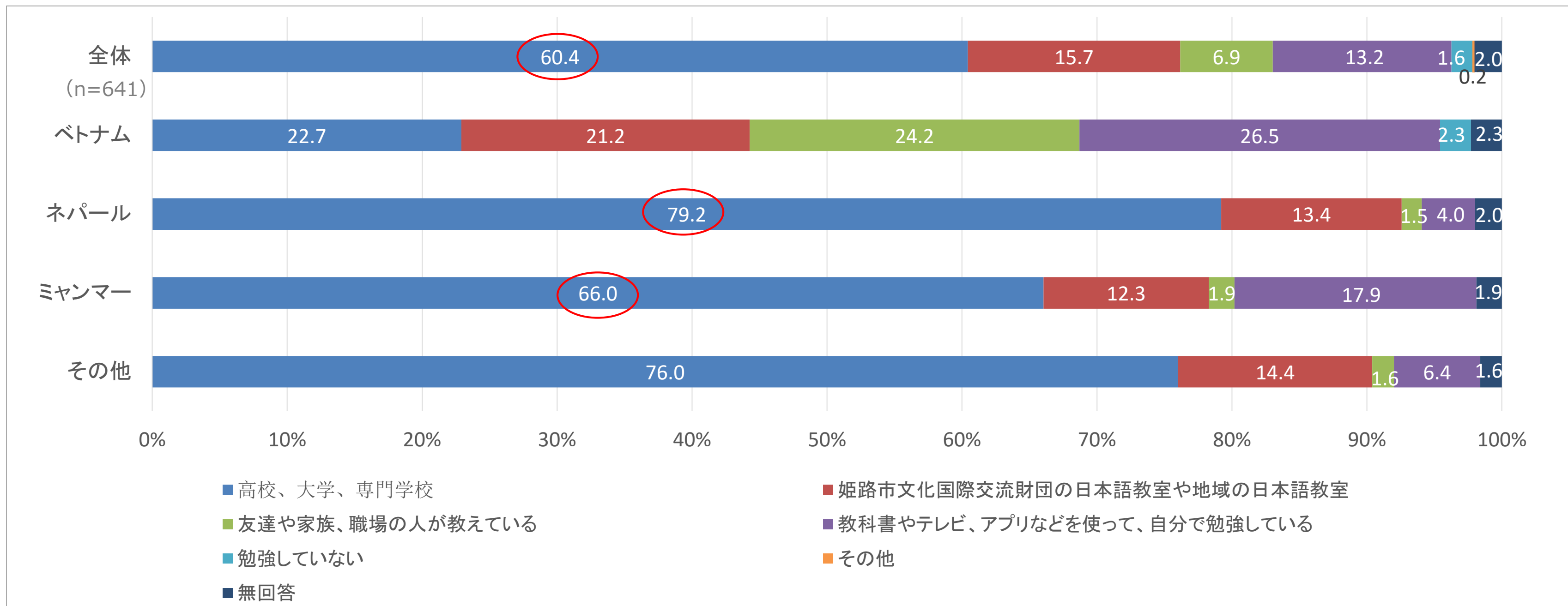
全体では「だいたいできる」が56.5%で最も高く、次いで「よくできる」が19.5%、合計で約76%が日本語で「話す」ことができると自己評価している。

国別では、ネパール、ミャンマーは、「だいたいできる」の割合が高い（約6割～7割）。一方でベトナムでは「あまりできない」（45.9%）が最も高くなっている。



# 外国人への調査結果

## ⑫日本語の学習方法



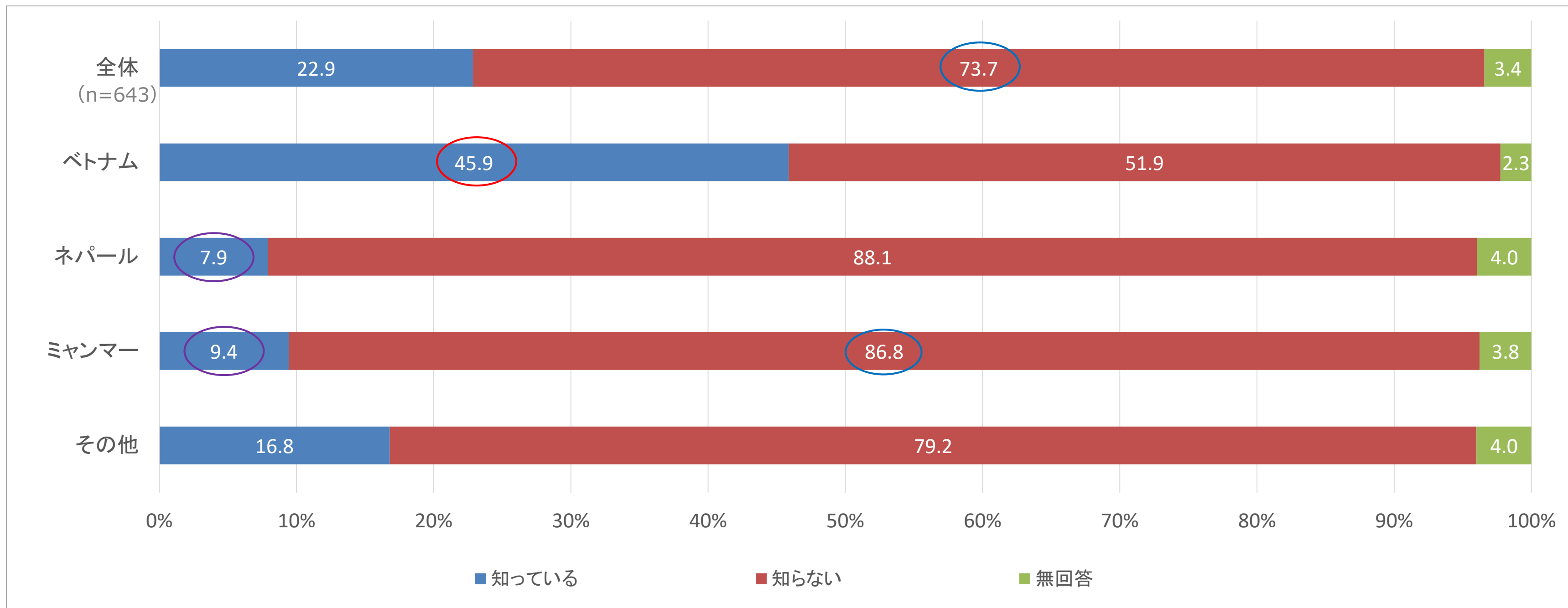
全体では、「高校、大学、専門学校（学校）」で学習する人の割合が最も高く（60.4%）で、次いで「日本語教室」（15.7%）、「独学」（13.2%）の順となっている。

国別では、ネパールやミャンマーは「学校」が特に多く（79.2%、66.0%）、ベトナムは「学校」、「日本語教室」、「友人や家族等」、「独学」が同程度の割合となっている。



# 外国人への調査結果

## ⑬ 姫路市文化国際交流財団の日本語教室の認知度

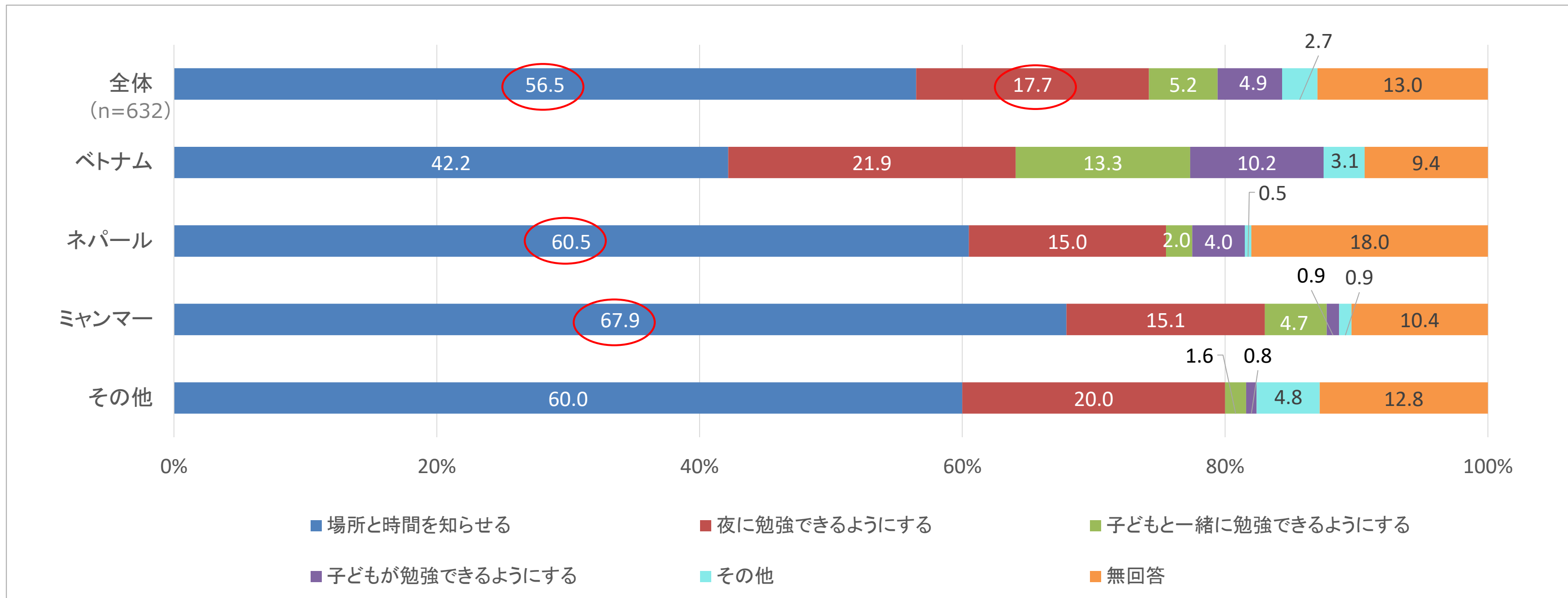


全体では、「知っている」が22.9%、「知らない」が73.7%で、多くの在住外国人は財団の日本語教室を知らない状況が伺える。国別では、ベトナム（45.9%）で認知度が高く、ネパールやミャンマーでは認知度が低い（ネパール 7.9%、ミャンマー 9.4%）。



# 外国人への調査結果

## ⑭日本語教室により多くの人に来てもらうにはどうすればよいか



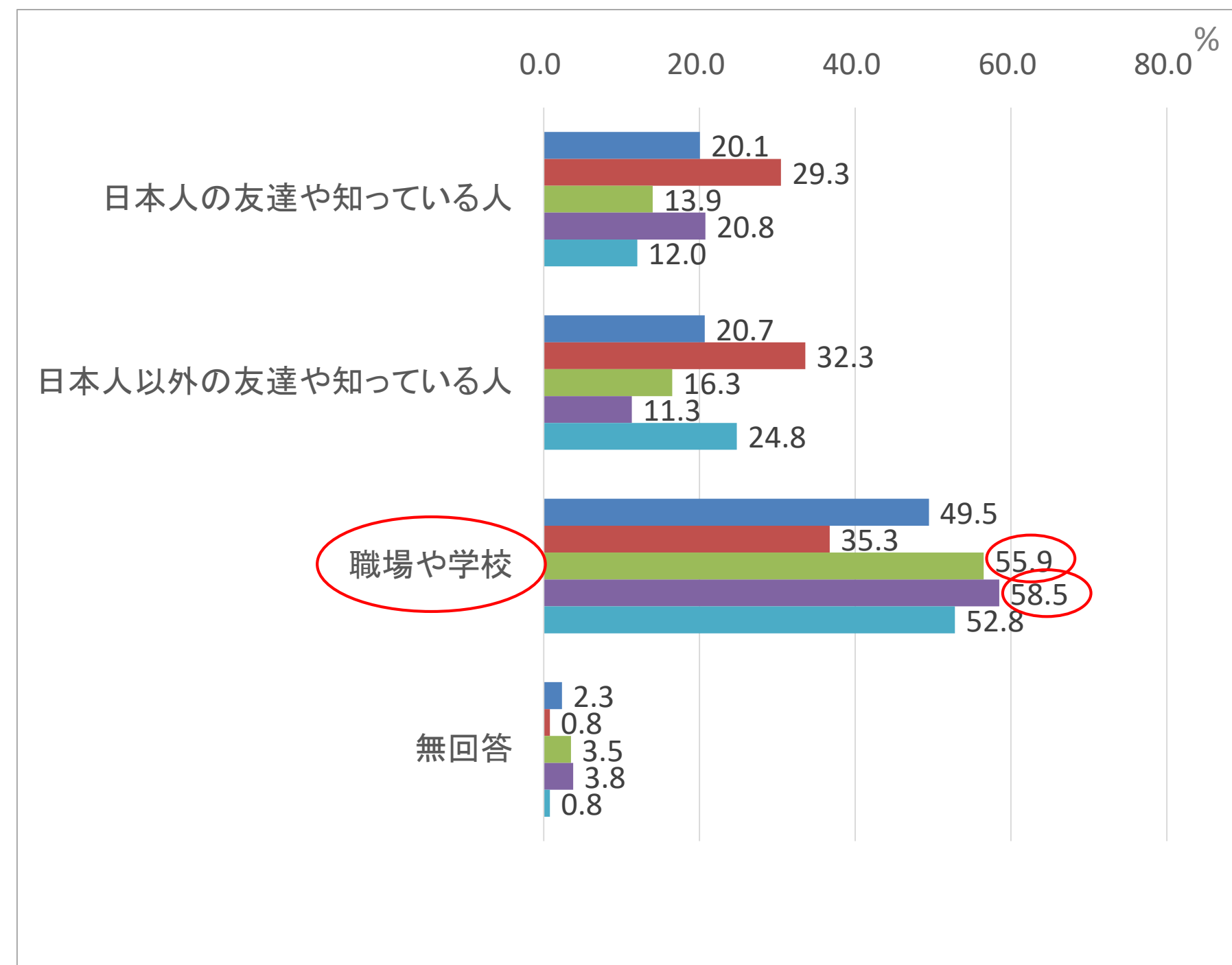
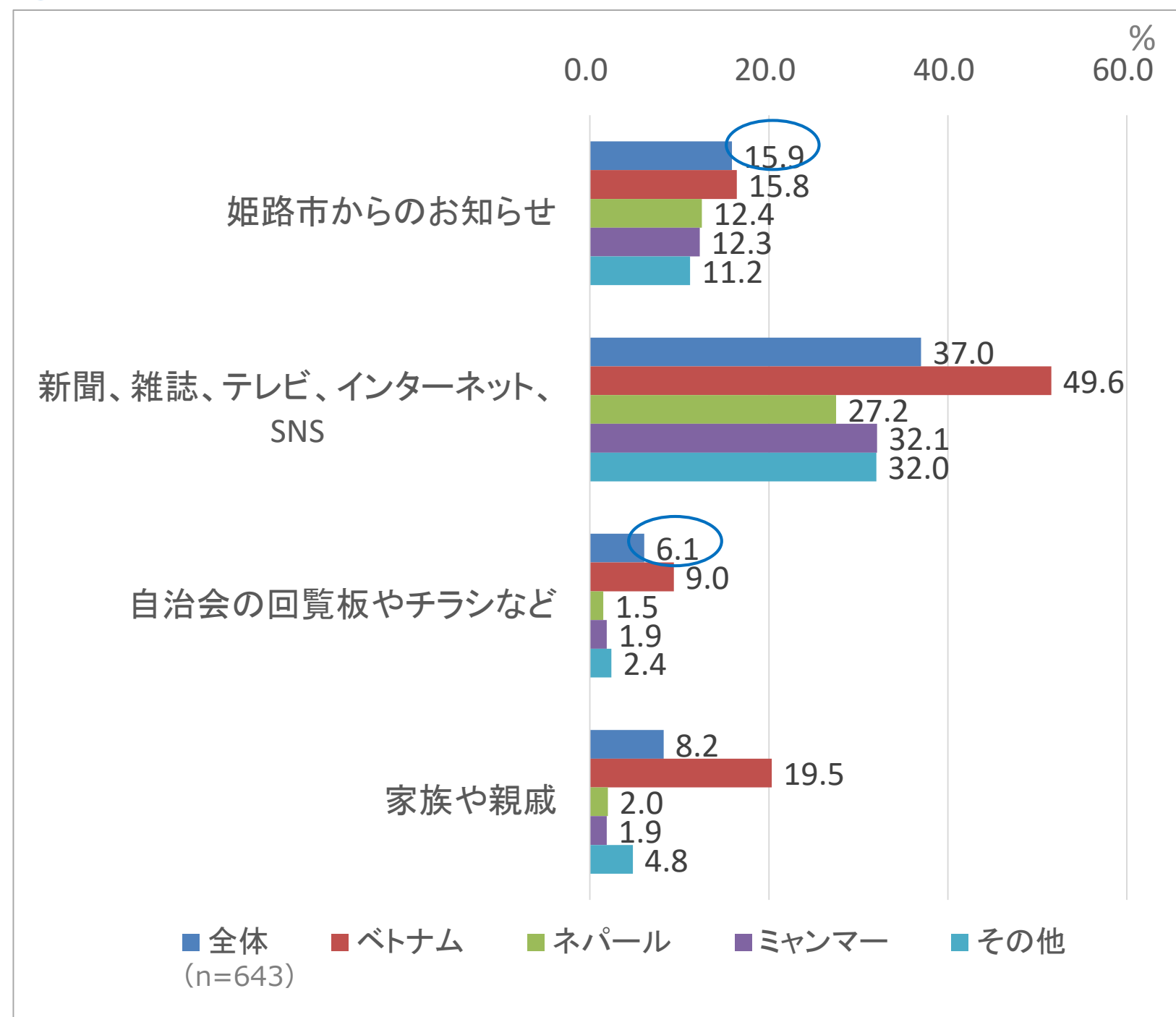
全体では「場所と時間を知らせる」(56.5%)が最も多く、次いで「夜に勉強できるようにする」(17.7%)となっている。「子どもと一緒に勉強できるようにする」(5.2%)や「子どもが勉強できるようにする」(4.9%)は一定数あるが、割合は低い。

国別では、ネパール、ミャンマーで「場所と時間を知らせる」が特に高い(ネパール 60.5%、ミャンマー 67.9%)。ベトナムはニーズが分散しており、「時間と場所を知らせる」が42.2%、「夜に勉強できるようにする」が21.9%、「子どもと一緒に勉強」が13.3%、「子どもが勉強できるようにする」が10.2%となっている。



# 外国人への調査結果

## ⑮生活の情報を知る方法

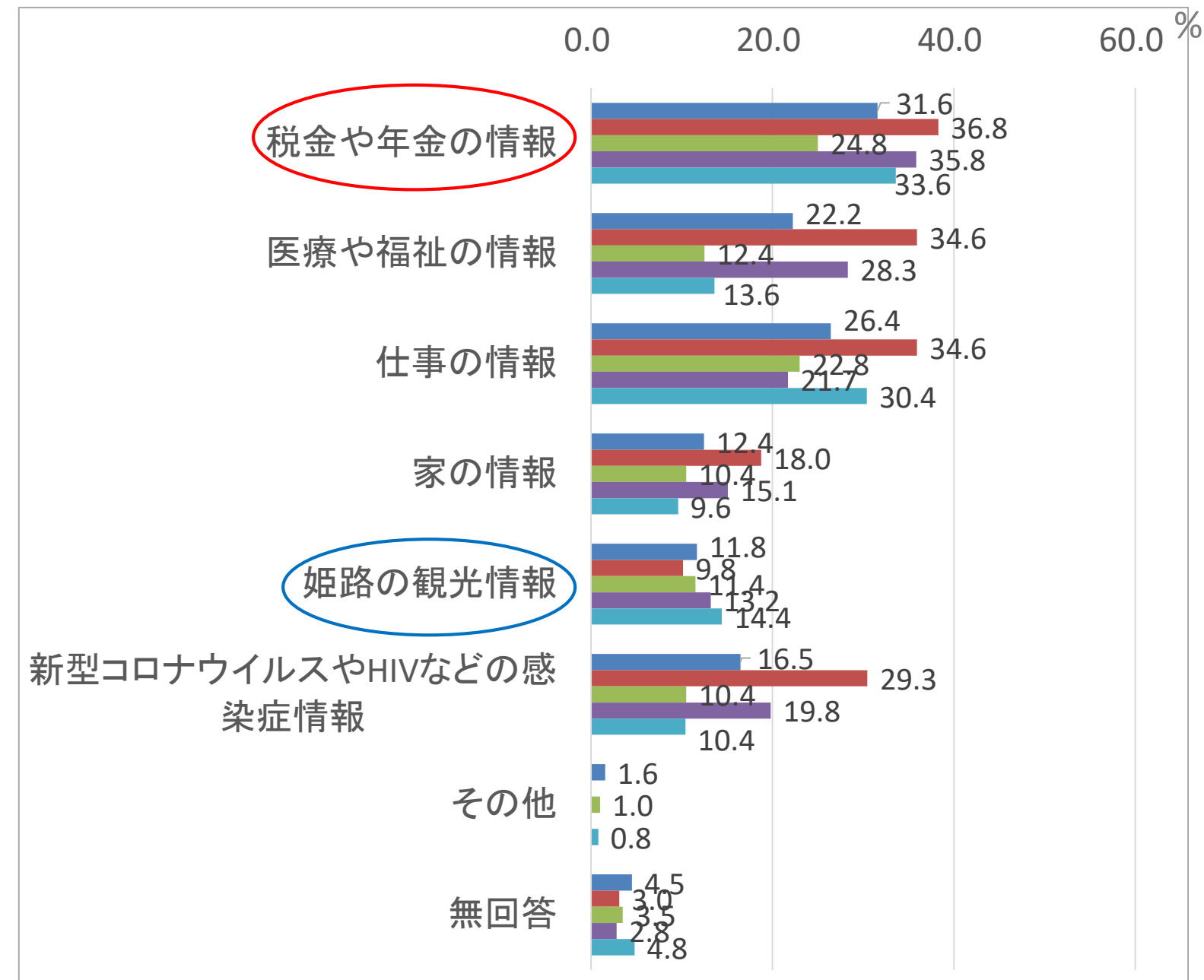
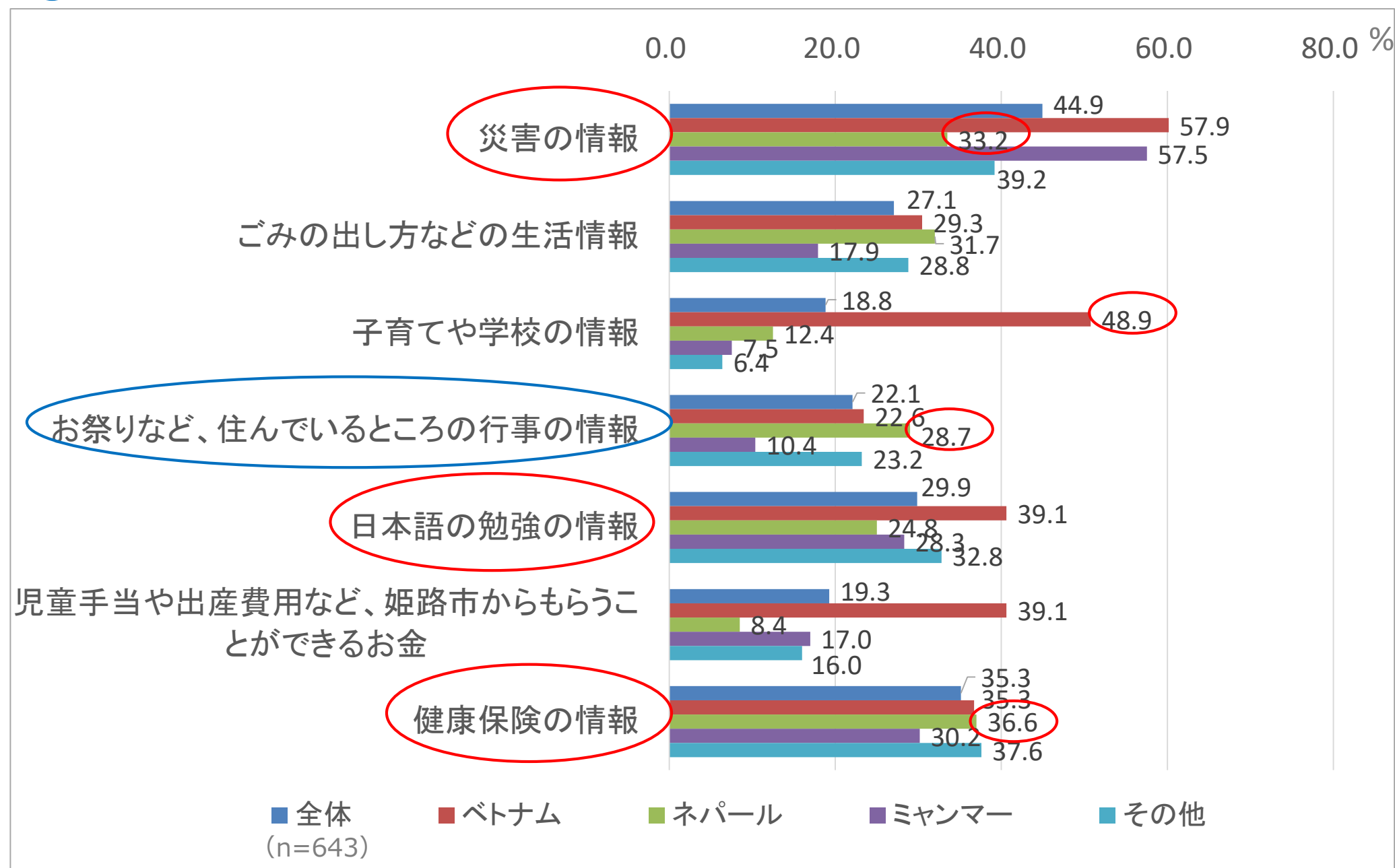


全体では「職場や学校」(49.5%)が最も多く、職場や学校が生活情報を知る場として重要な役割を担っていることが伺える。次に「新聞・雑誌・テレビ・インターネット・SNS」(37.0%)、「日本人以外の友達」(20.7%)、「日本人の友達」(20.1%)が続く。「姫路市からののお知らせ」(15.9%)や「自治会の回覧板等」(6.1%)から情報を得ている層は少数派である。市の情報が直接届いている層は限定的であり、多くは職場や学校、メディア、友人から情報を得ている。国別で見ると、ネパール、ミャンマーで「職場や学校」の割合が高い(ネパール 55.9%、ミャンマー 58.5%)。



# 外国人への調査結果

## ⑩母国語で必要とする情報



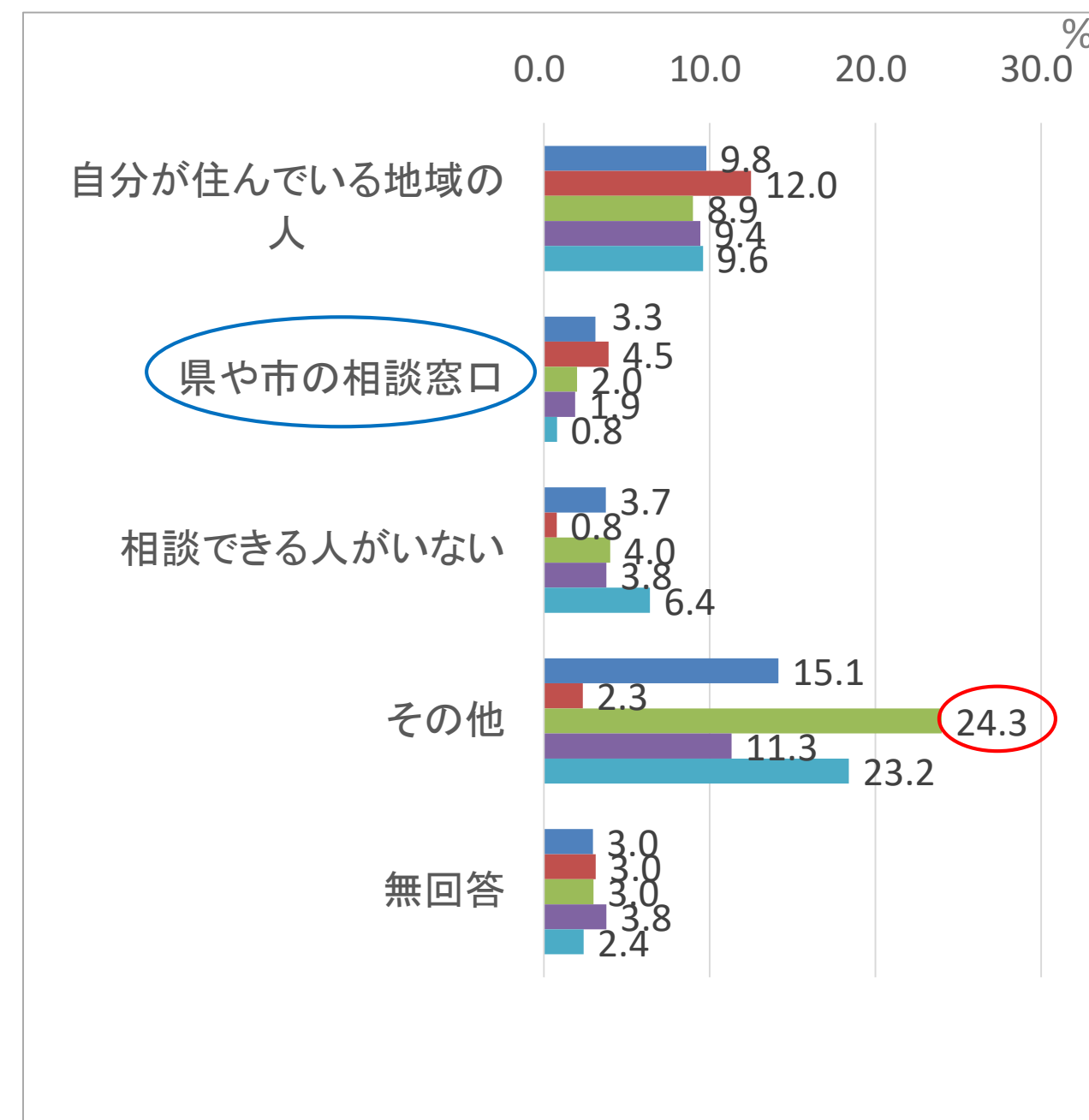
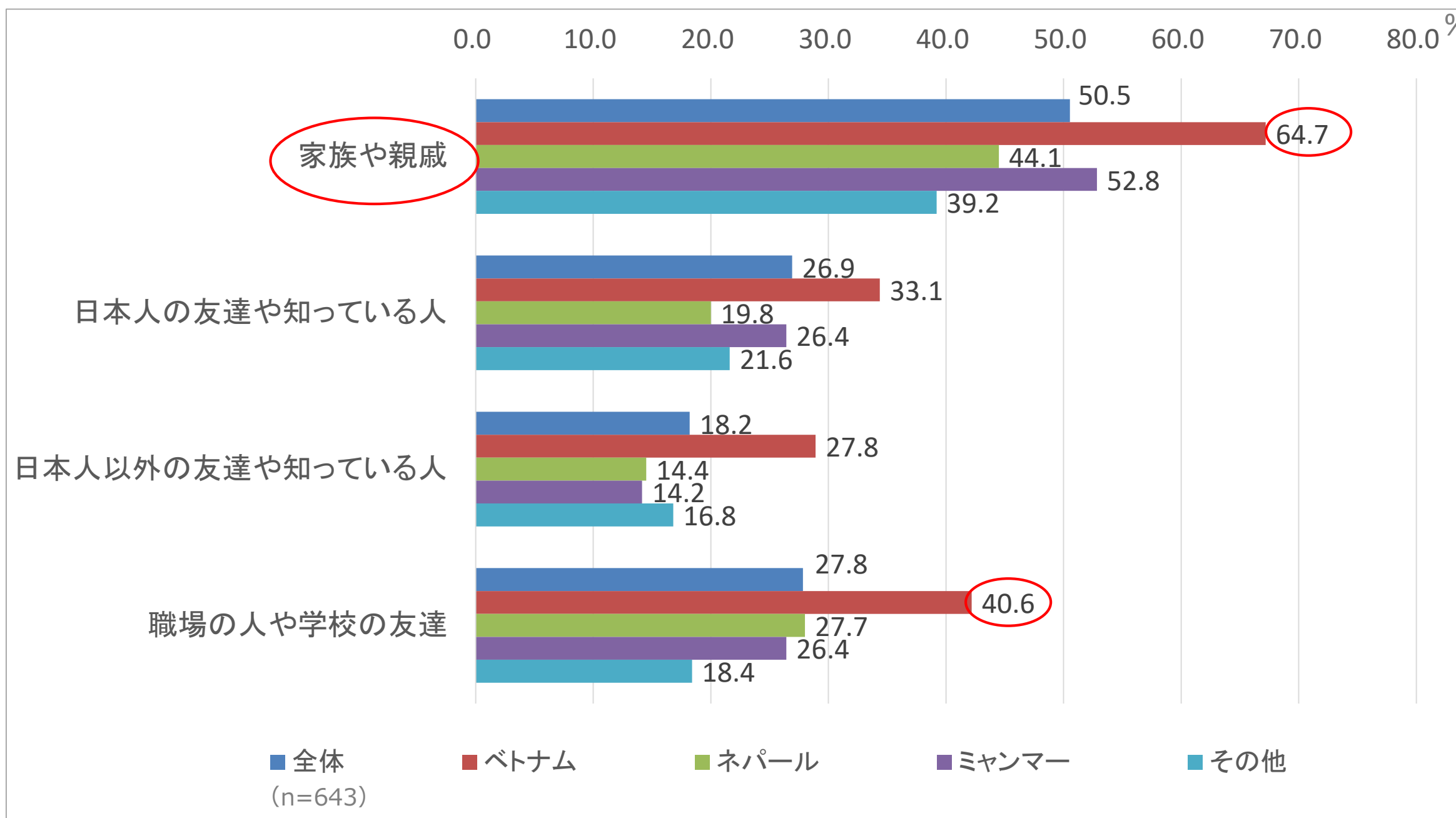
全体では「災害の情報」(44.9%)のニーズが高く、次いで「健康保険の情報」(35.3%)、「税金や年金の情報」(31.6%)、「日本語の勉強の情報」(29.9%)となっている。「姫路市からもらうことができるお金」の情報も19.3%と、中程度の関心を示している。

国別では、いずれの国も「災害」、「健康保険」、「税・年金」、「日本語学習」の情報に対するニーズは高い。ベトナムは「子育てや学校の情報」(48.9%)の割合が高く、ネパールでは「健康保険」(36.6%)や「災害情報」(33.2%)など医療・安全の情報への需要が高い。「観光」や「地域行事」に関する情報へのニーズは全体的に低い(観光11.8%、行事22.1%)が、ネパールは地域行事への関心がやや高い(28.7%)。



# 外国人への調査結果

## ⑰ 困ったときの相談相手 ※複数回答



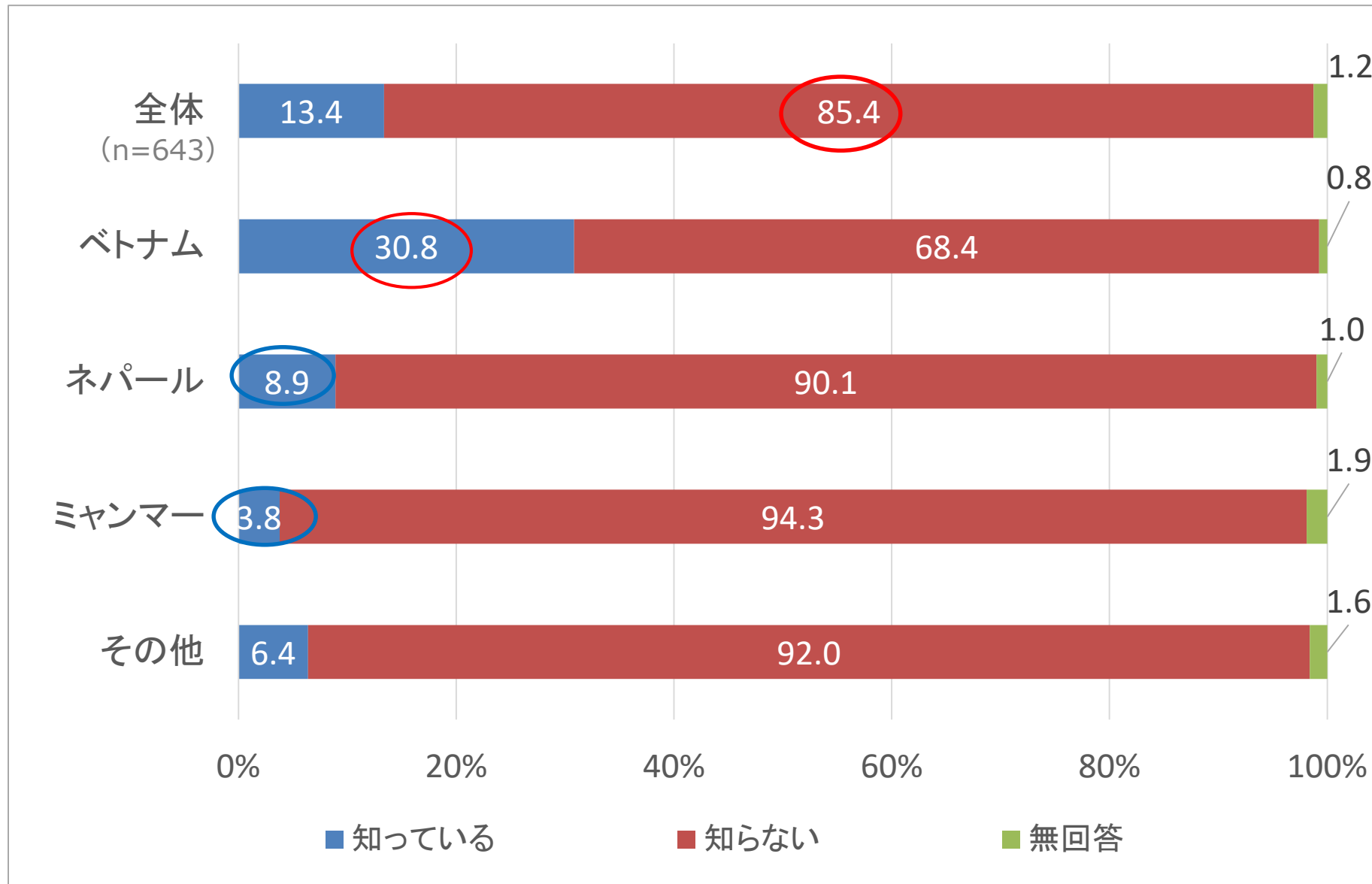
全体では、最も多い相談相手は「家族や親戚」（50.5%）で、次いで「職場の人や学校の友達」（27.8%）、「日本人の友達や知っている人」（26.9%）、「日本人以外の友達や知っている人」（18.2%）となっている。多くの外国人が、家族や仕事仲間、友人に相談していることが示されている。「県や市の相談窓口」は全体で3.3%にとどまる。公的機関に対する回答者の潜在的なイメージが関係している可能性も考えられる。また、「相談できる人がいない」が3.7%存在している点に留意する。

国別では、ベトナムは「家族・親戚」（64.7%）や「職場の人や学校の友達」（40.6%）が高い。ネパールは「その他（具体的には在住コミュニティなど）」に相談する割合が大きい（24.3%）。



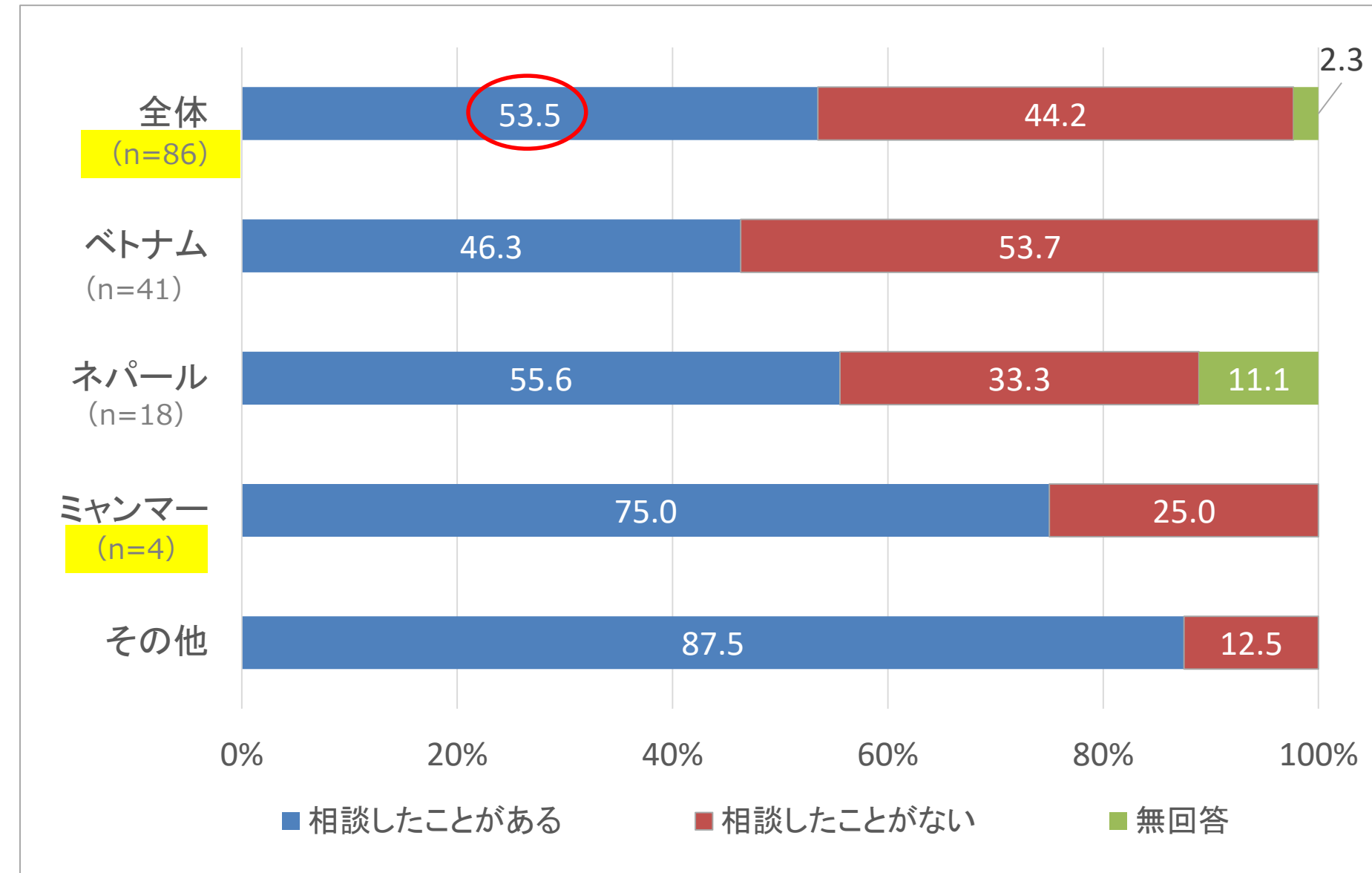
# 外国人への調査結果

## ⑱ 姫路市外国人相談センターの認知度



全体では85.4%が外国人相談センターを「知らない」と回答しており、同相談センターの認知度は低い。  
 国別では、ベトナム（30.8%）は比較的認知度が高く、ネパール（8.9%）やミャンマー（3.8%）は低い。

## ⑲ 相談したことがあるか

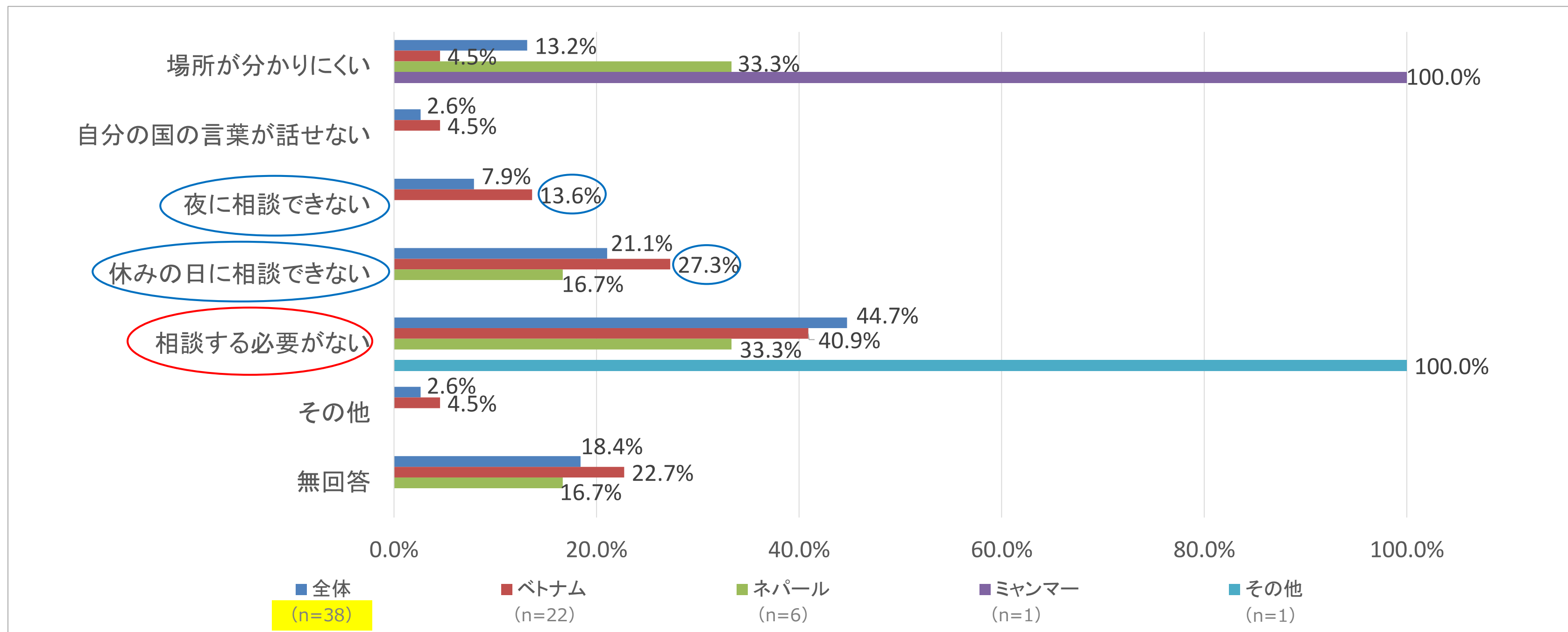


外国人相談センターを知っている人（86人）のうち、実際に相談したことがある人は46人（53.5%）で、同相談センターの存在を認知していれば利用につながっている割合は高い。  
 国別では、母数は小さいがミャンマー（75.0%）が最も高く、次いでネパール（55.6%）、ベトナム（46.3%）と続く。ミャンマーやネパールの一部のコミュニティ内で、情報共有されている、あるいはニーズが高い可能性がある。



# 外国人への調査結果

## ⑳相談したことがない理由 ※複数回答



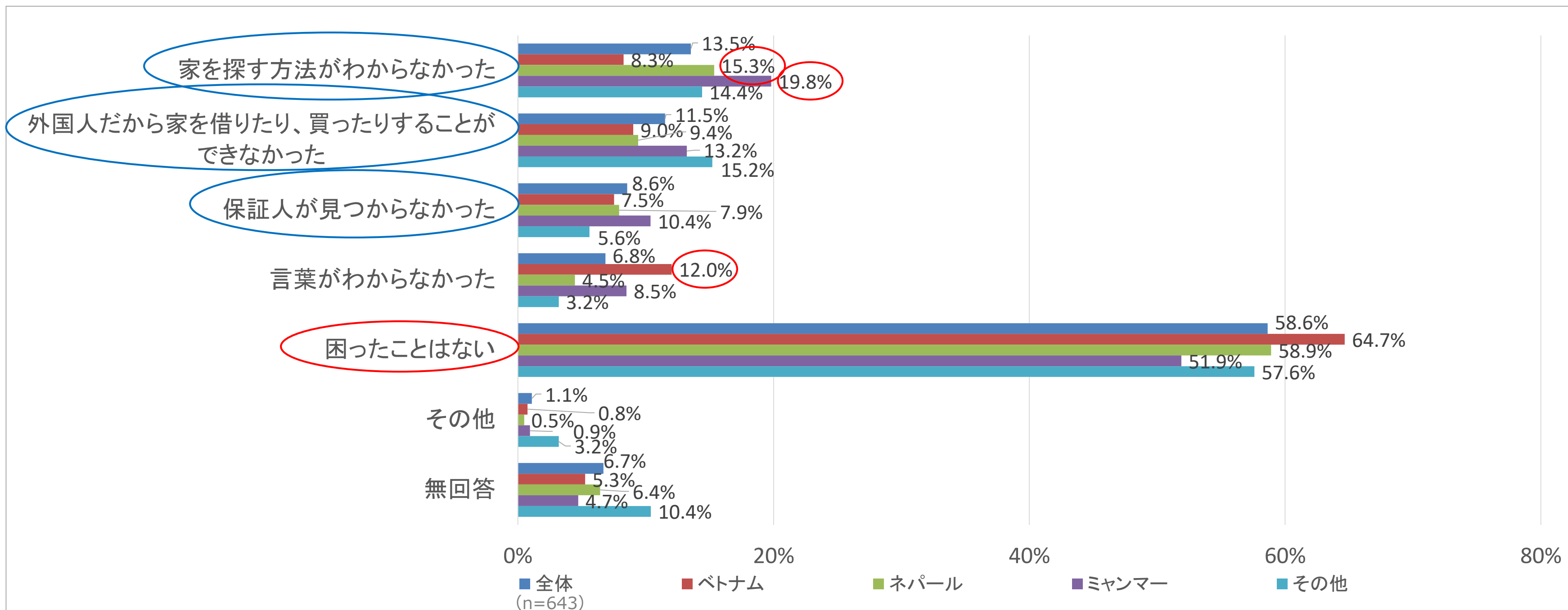
全体の母数は小さいが、「相談する必要がない」（44.7%）が最多で、約半数を占める。次いで「休みの日に相談できない」21.1%、「場所が分かりにくい」13.2%となっている。「休みの日に相談できない」や「夜に相談できない」は、仕事や学校のために平日の昼間には来所できないことを示唆している。「自分の国の言葉で話せない」（2.6%）は相対的に低い。

国別に見ると、ベトナムで「休みの日に相談できない」（27.3%）や「夜に相談できない」（13.6%）が比較的高い。



# 外国人への調査結果

## ②住むところについて困ったことはあるか ※複数回答



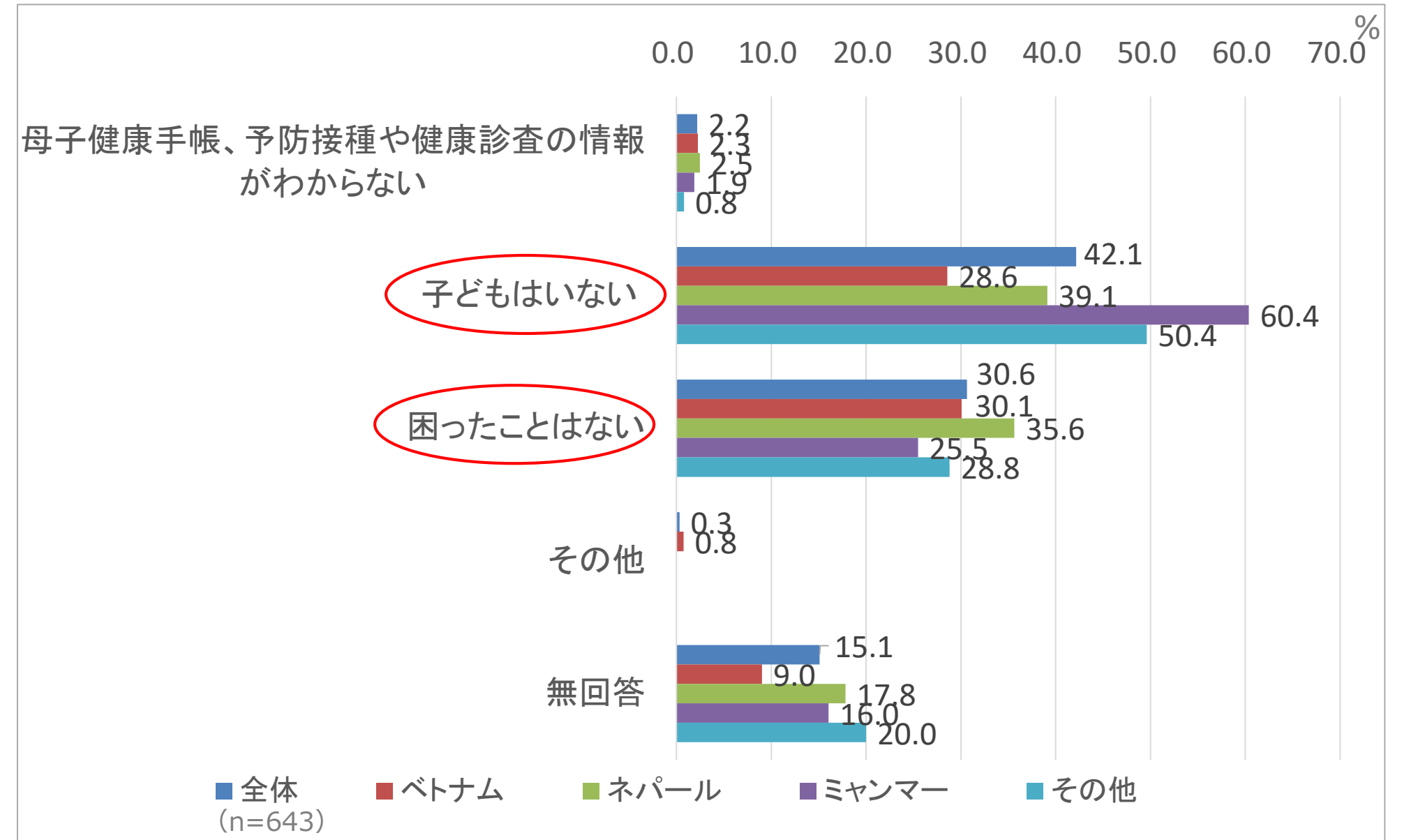
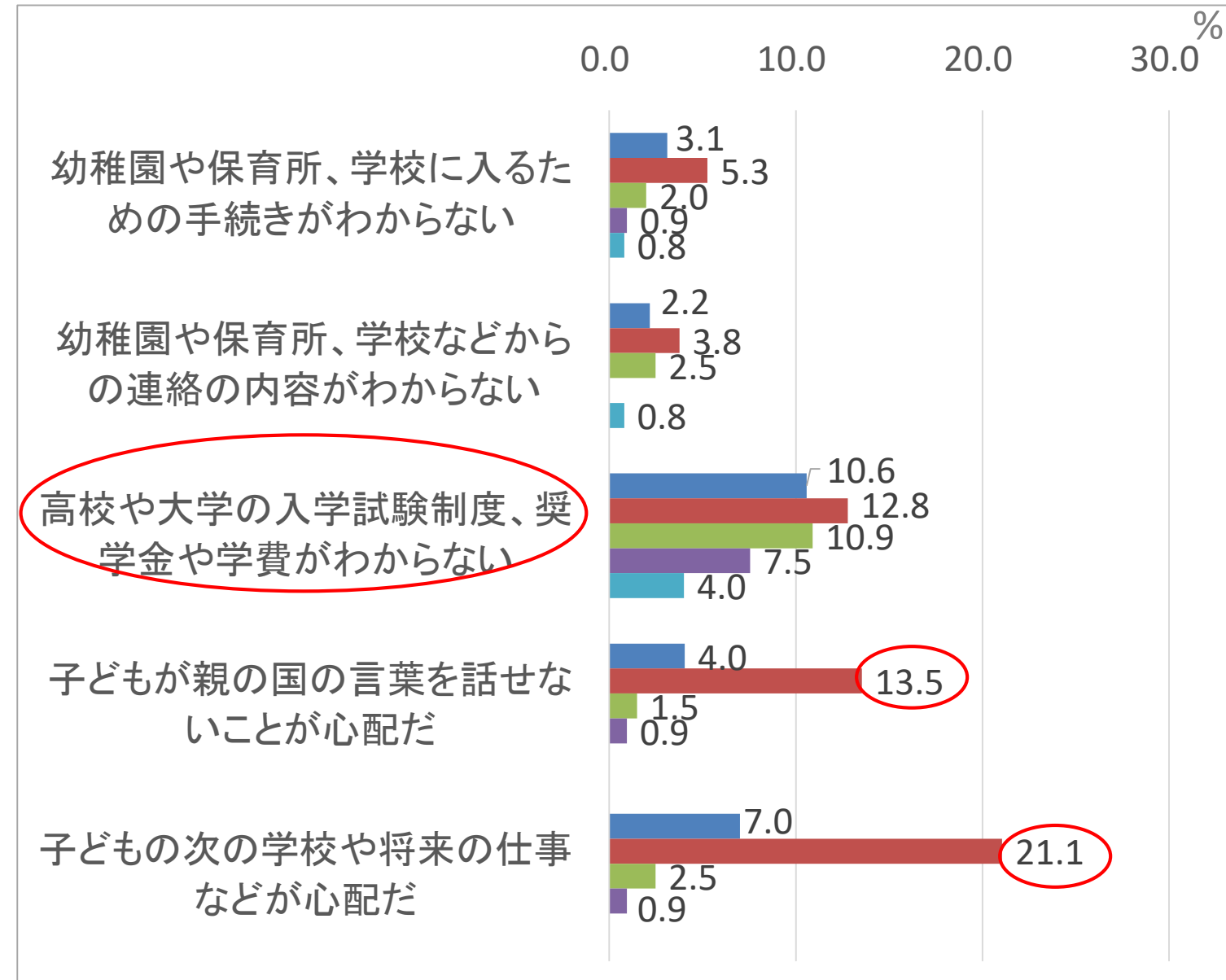
全体では、「困ったことはない」が最も多い。一方で「家を探す方法がわからなかった」（13.5%）、「外国人だから家を借りたり、買ったりできなかった」（11.5%）、「保証人が見つからなかった」（8.6%）といった、具体的な困り事が一定数存在する。

国別に見ると、ネパールやミャンマーで「家を探す方法がわからなかった」の比率がやや高く（ネパール 15.3%、ミャンマー 19.8%）、新規移住者や同国人コミュニティ外の人が情報の入手手段に困っている可能性がある。ベトナムでは「言葉がわからなかった」がやや高い（12.0%）。



# 外国人への調査結果

## ② 子育てや学校で困ったことはあるか ※複数回答



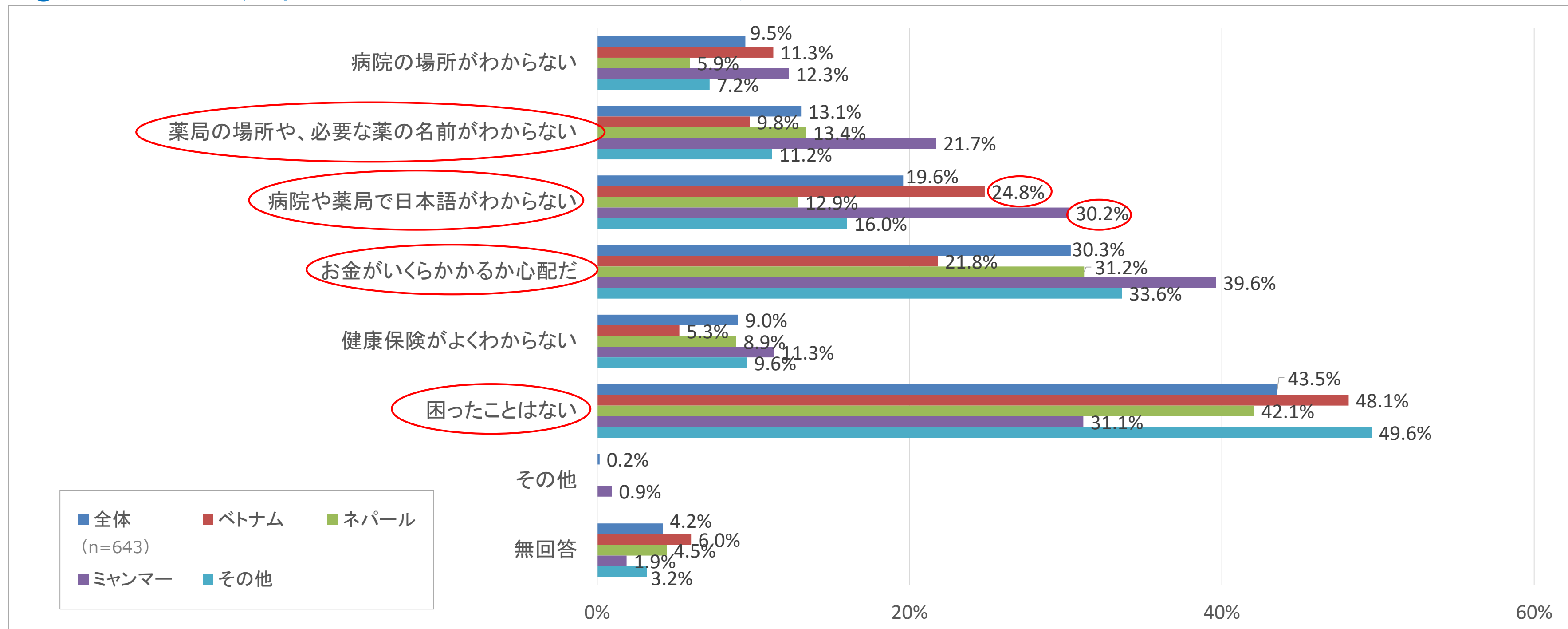
全体では、「子どもはいない」(42.1%) が最も多く、回答者の多くが子育て世帯ではないことが示されている(①年代と一致)。次いで「困ったことはない」(30.6%) となっており、子育てや学校での支障を感じていない人が多くを占める。困りごとの内容としては、「高校や大学の入学試験制度、奨学金や学費がわからない」(10.6%) が最も多く、義務教育よりも高校・大学進学段階における困りごとが大きいことが示されている。次いで「子どもの次の学校や将来の仕事などが心配だ」(7.0%) となっており、現時点の子育て・学校の悩みより、将来の教育・就労を含む長期的な不安の大きさを反映している。

国別では、ベトナムで「子どもの次の学校や将来の仕事などが心配だ」(21.1%)、「子どもが親の国の言葉を話せないことが心配だ」(13.5%) が比較的高い。ネパールとミャンマーは「子どもはいない」が多く、世帯の形態の違い(回答者に留学生が多いこと)が回答の傾向に影響している可能性がある。



# 外国人への調査結果

## ②③ 病院や病気、薬のことで困っていることはあるか ※複数回答



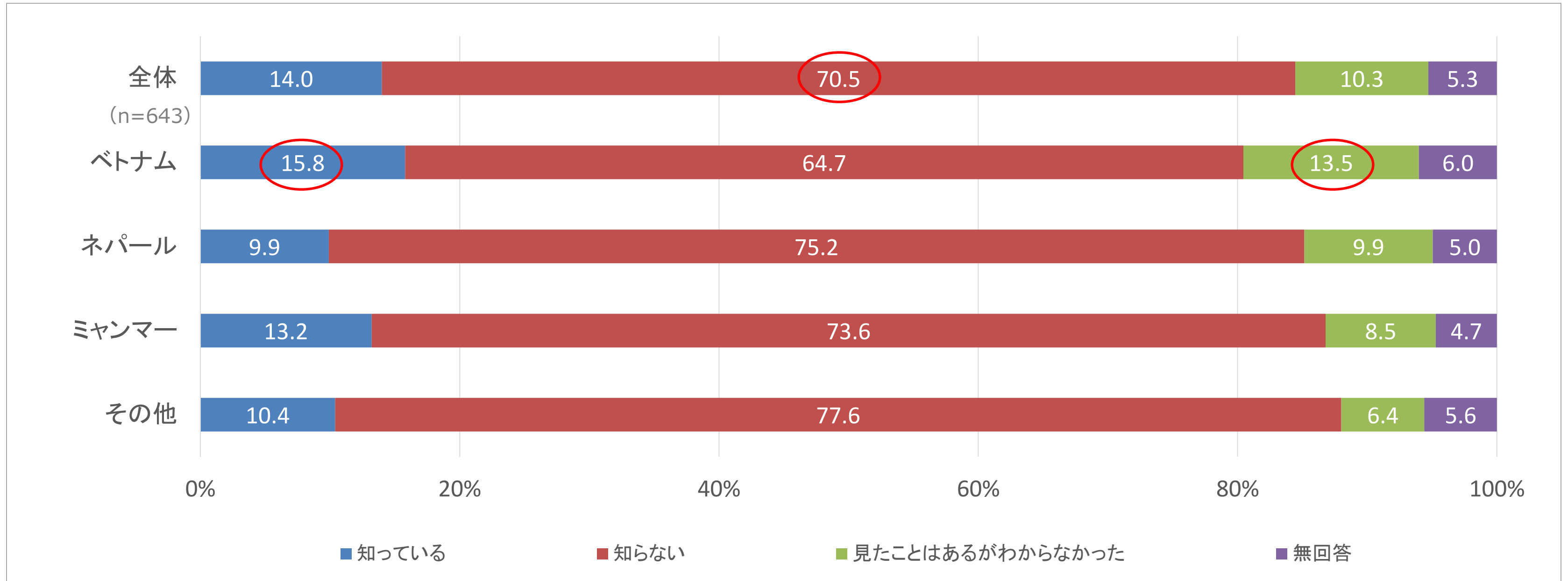
全体では、「困ったことはない」が43.5%で最も多い。困っている内容としては、「お金がいくらかかるか心配だ」（30.3%）が最も多く、次いで「病院や薬局で日本語がわからない」（19.6%）、「薬局の場所や必要な薬の名前がわからない」（13.1%）となっている。また、「病院の場所がわからない」（9.5%）、「健康保険がよくわからない」（9.0%）も一定数ある。

国別では、ベトナムやミャンマーで「病院や薬局で日本語がわからない」の割合が高く（24.8%、30.2%）、言語面の困難を感じている。



## 外国人への調査結果

### ④ ハザードマップの認知度



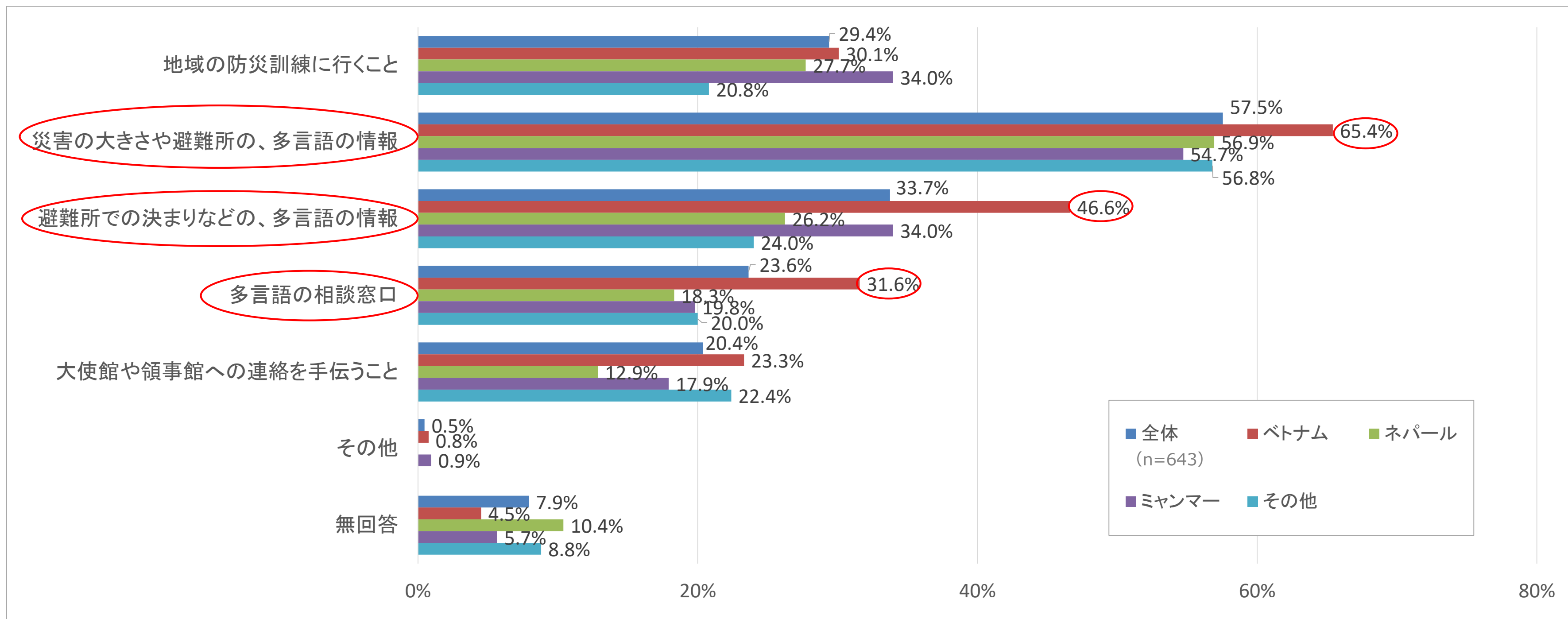
全体では、「知らない」が70.5%で、ハザードマップの認知度は低い。一方で「見たことはあるがわからなかった」も10.3%あるため、地図や内容の難しさも障壁になっていると考えられる。

国別では、ベトナムで「知っている」(15.8%) や「見たことはあるがわからなかった」(13.5%) が比較的高い。



# 外国人への調査結果

## ②⑤ 災害前の準備や災害発生時に何が必要か ※複数回答



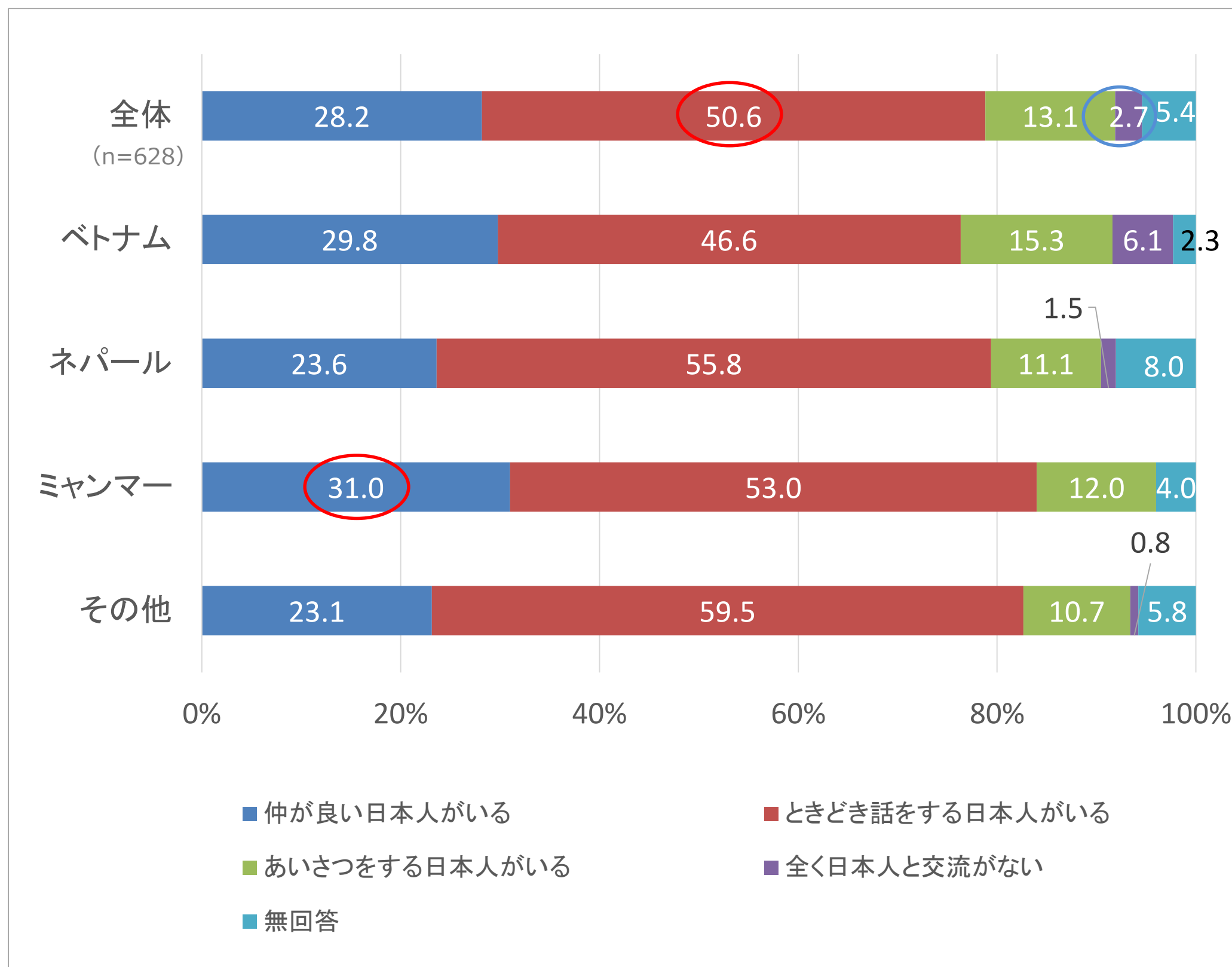
全体では、「災害の大きさや避難所の、多言語の情報」(57.5%) が最も多く、次いで「避難所での決まりなどの、多言語の情報」(33.7%)、「地域の防災訓練に行くこと」(29.4%)、「多言語の相談窓口」(23.6%) となっており、情報の多言語化が重要視されている。

国別では、ベトナムで多くの項目に関してニーズが高く、特に多言語情報への期待が強い。



# 外国人への調査結果

## ②6 日本人とどのような交流をしているか



### 【前回調査との比較】

(%)

	令和2年	令和7年	増減
仲が良い日本人がいる	27.7	28.2	0.5
ときどき話をする日本人がいる	41.2	50.6	9.4
あいさつをする日本人がいる	18.5	13.1	-5.4
全く日本人と交流がない	3.6	2.7	-0.9
無回答	9.0	5.4	-3.6

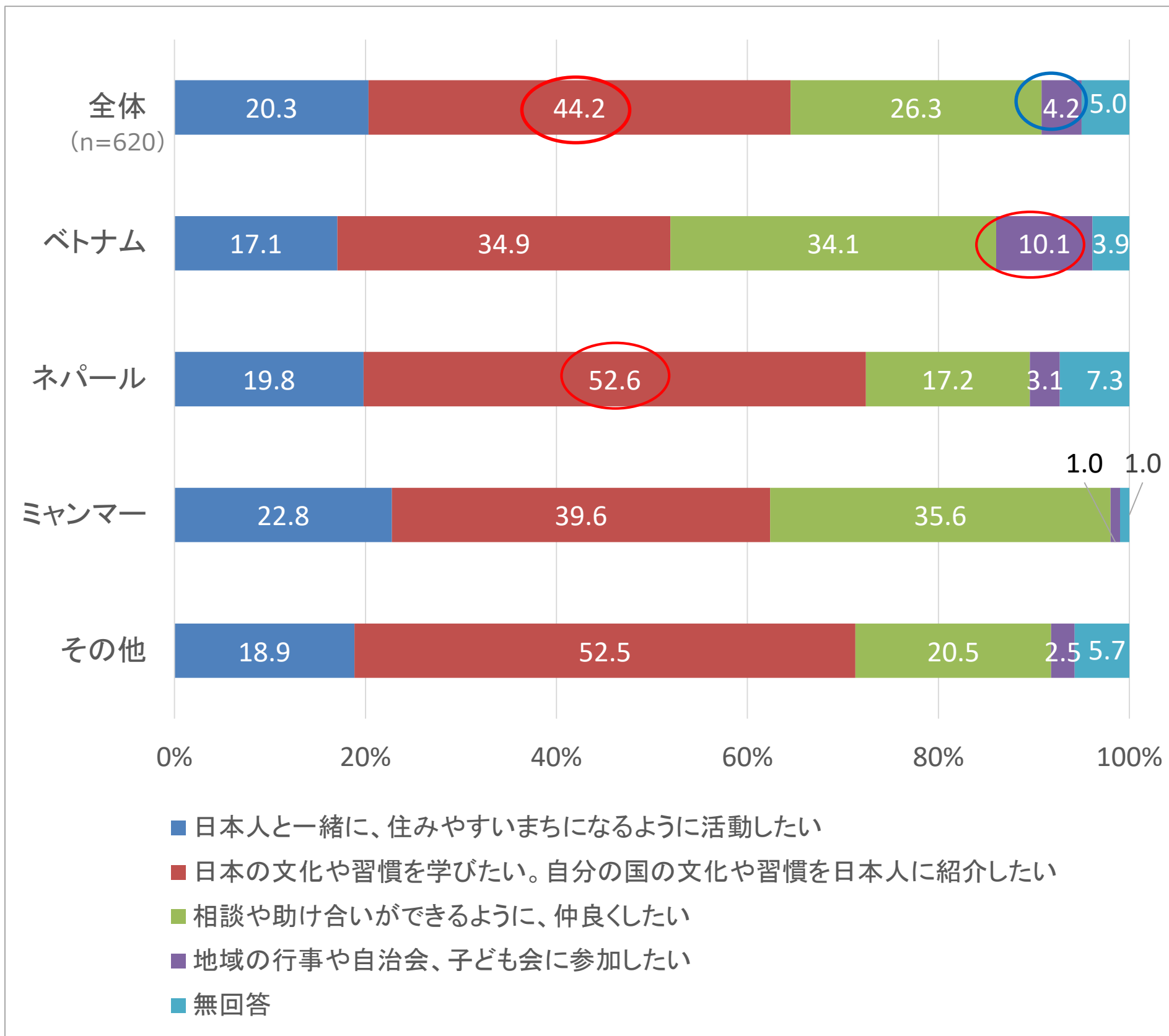
全体では、「ときどき話をする日本人がいる」(50.6%) が最も多く、次いで「仲が良い日本人がいる」(28.2%)、「あいさつをする日本人がいる」(13.1%) となっている。日本人との日常的な接触はあるが、親密な交流までには至っていない層が中心である。「全く日本人と交流がない」(2.7%) も少数ではあるが一定数存在している。

国別では、ミャンマーが日本人との交流が多い傾向がみられる。令和2年調査に比べ、「ときどき話をする日本人がいる」が増え(9.4%)、「あいさつをする日本人がいる」が減少(-5.4%)している。交流の形が、日常会話寄りに変化している可能性がある。



# 外国人への調査結果

## ②7 日本人とどのような交流をしたいか



【前回調査との比較】

(%)

	令和2年	令和7年	増減
日本人と一緒に、住みやすいまちになるように活動したい	11.6	20.3	8.7
日本の文化や習慣を学びたい。自分の国の文化や習慣を日本人に紹介したい	32.8	44.2	11.4
相談や助け合いができるように、仲良くしたい	35.5	26.3	-9.2
地域の行事や自治会、子ども会に参加したい	7.6	4.2	-3.4
無回答	12.6	5.0	-7.6

全体では、「日本の文化や習慣を学びたい。自分の国の文化や習慣を日本人に紹介したい」が44.2%で最も多い。次いで「相談や助け合いができるように、仲良くしたい」（26.3%）、「日本人と一緒に、住みやすいまちになるように活動したい」（20.3%）となっている。「地域の行事や自治会、子ども会に参加したい」は4.2%で、地域組織への参加意向は相対的に低い。多くは、文化交流や相互理解、助け合いができる関係を求めている。

国別で見ると、ネパールで文化交流の志向が高く（52.6%）、ベトナムは地域参加の意向が他国よりやや高い（10.1%）。

令和2年調査と比べると、文化交流の志向が高まり（11.4%）、仲良くしたいという志向はやや低下（-9.2%）しているように見受けられる。